日本ロシア文学会
第 70 回大会資料集

2020 年 10 月 31（土）～11 月 1 日（日）
大阪大学・オンライン

日本ロシア文学会

【大会実行委員会からオンライン開催のお知らせとお願い】

今年度の大会は、新型コロナ・ウィルス感染症の流行に鑑み、全面オンライン方式で、定例総会・研究発表会のみを実施します。理事会、各種委員会、懇親会は実施されません。

定例総会・研究発表会に出席されるに際して、Zoom（遠隔会議システム）のダウンロード（最新版）とブロックごとの事前登録が必要となります。資料の配布はグーグルドライブからダウンロードする形で行います。

各ブロック、総会の具体的な登録用のリンク等の詳細については、今後、日本ロシア文学会のホームページ（http://yaar.jpn.org/）と学会員メーリングリストによりご連絡いたします。今大会に関するその他の連絡も同様です。

オンライン大会の概要

同封の「第 70 回定例総会・研究発表会（大阪大学・オンライン大会）Zoom の使い方」もお読みください。

1．学会員メーリングリストで登録用 URL のお知らせメールを受け取ったら、参加希望のブロックすべてに、10 月 29 日（木）までにご登録ください。同一時間帯の複数会場に登録できます。
2．事前登録制です。指定の URL にアクセスし、必要事項を記入してください。氏名の項目は指示に関係なく「先に姓、後に名前」を入力します。登録を終えると、改めてメールで当該ブロックが開催される Zoom の URL（およびミーティング ID とパスコード）が送られてきます。
3．当日、各会場は、開始 10 分前に開場します。Zoom の URL をクリックしてご参加ください。
4．会場として、A１～４、B１、C１～３、W１～２、「総会」および「交流室」を設定します。開会式は 10 月 31 日（土）9:30 よりブロック A１で行います。
5．「交流室」は開会式・総会の時間以外は、歓談等にご利用いただけます。
6．ハンドアウト（配布資料）は 10 月 29 日（木）以降に各自ダウンロードしてください。URL 等、詳しくは、同封の「第 70 回定例総会・研究発表会（大阪大学・オンライン大会）Zoom の使い方」をご覧ください。後日、学会員メーリングリストでもご連絡します。
7．トラブル等で会場が閉じてしまった場合は、いったん「交流室」に移動してください。その後の対応については「交流室」でお知らせします。
8．接続等についてわからないことがあれば、online_conf@yaar.sakura.ne.jp までメールでお問い合わせください。交流室にも会場係が常駐しますので、お声掛けいただいても構いません。
9．参加者および司会・報告者には、接続確認の機会をそれぞれ設けます。不安のある方はご参加ください。日時については後日、メールでお知らせします。

メール受信確認のお願い

学会員メーリングリストに未登録、ないし現在使用しているアドレスを登録されていない方は、事務局（ yaar@yaar.jpn.org ）宛てに、現在のメールアドレスを至急ご連絡ください。

10 月 10 日にテストメールを配信しますので、受信出来なかった方も事務局（ yaar@yaar.jpn.org ）宛てに、ご連絡ください。

（学会員メーリングリストからのメール標題の冒頭には、「[robun:㊙㊚] ［日本ロシア文学会］」という記載があります。このようなメールを最近受け取っていない方は、学会メーリングリストに登録されていない可能性がありますので、ご注意ください。）

※　各ブロックへの登録用 URL は、学会員以外の学生や院生のみなさん、研究で関わりのある方々などにお知らせくださって結構です。

ただし、質疑の際の発言は、会員のみに限らせていただきます。また、SNS 等で無制限に拡散するのはおやめください。

これまでとは全く異なる開催方法に戸惑うことが多いと思いますが、充実した会の開催に向けて、ご協力よろしくお願い申し上げます。

☆お問い合わせ先

大会実行委員会　exe_conf@yaar.jpn.org　　同　オンライン班　online_conf@yaar.sakura.ne.jp

第 70 回（2020 年度）定例総会・研究発表会は、来たる **10 月 31 日（土）、11 月 1 日（日）の両日、zoom によるオンライン方式で開催**されます。

研究発表会では、18 件の個別発表（A, B, C）、2 件のワークショップが設けられます。ふるってご参加ください。

以下の日程をご確認の上、 学会ホームページの掲示と学会員メーリングリストによる事務局、広報委員会、大会実行委員会オンライン班からの今後の連絡に基づき、10 月 29 日（木）までに、ブロック・総会会場・交流室ごとの事前登録をお願いいたします。

10 月 31 日（土）				
開会式 09:30–09:40 ブロック① A-1 会場				
		第 1 会場	第 2 会場	交流室
研究発表	09:50–10:25	ブロック① A-1	ブロック② B-1	歓談スペース （緊急退避 スペース）
	10:30–11:05			
	11:05–11:35	休憩		
	11:35–12:10	ブロック③ A-2	ブロック④ C-1	
	12:15–12:50			
	12:55–13:30			
昼食	13:30–14:30	昼食		
研究発表	14:30–15:05	ブロック⑤ A-3	ブロック⑥ C-2	
	15:10–15:45			
	15:50–16:25			
休憩	16:25–16:45	休憩		
定例総会 大賞・学会賞授賞式	16:45–18:00	総会会場		（緊急退避 スペース）

11 月 1 日（日）				
		第 1 会場	第 2 会場	交流室
研究発表・ ワークショップ	09:30–10:05	ブロック⑦ A-4	ブロック⑧ C-3	歓談スペース （緊急退避 スペース）
	10:10–10:45			
	10:45–11:15	休憩		
	11:15–13:15	ブロック⑨ W-1	ブロック⑩ W-2	

※各会場がトラブル等で途中で閉じてしまった場合、交流室で待機してください。
※会期中、質問のある方は、交流室の会場係にお声掛けください。または online_conf@yaar.sakura.ne.jp までメールでお問い合わせください。

第 1 日研究発表　10 月 31 日（土）

第 1 会場				
ブロック・日時	番号	発表者	題　目	司会者
ブロック① 10 月 31 日 9:50-11:05	A01	大西郁夫 ОНИСИ Икуо	『オブローモフ』と近代 «Обломов» и прогресс	澤田和彦 相沢直樹
	A02	五月女颯 SOTOME Hayate	チャヴチャヴァゼ「彼は人か?!」とゴンチャロフ『オブローモフ』の対位法的読解 Contrapuntal Reading between Ch'avch'avadze's *Is He a Human?!* and Goncharov's *Oblomov*	
ブロック③ 10 月 31 日 11:35-13:30	A03	田中沙季 ТАНАКА Саки	A.B.コリツォーフの詩における「詩人」のイメージ Образ «поэта» в стихотворениях А.В. Кольцова	郡伸哉 小俣智史
	A04	松原繁生 МАЦУБАРА Шигэо	ラスコーリニコフとスヴィドリガイロフ：二人の生死を分けたもの Воскресший Раскольников и умерший Свидригайлов	
	A05	福井祐生 FUKUI Yuki	フョードロフ思想における進化論とキリスト教との統合 Synthesis of Evolution Theories and Christianity in the Thought of N.F. Fedorov	
ブロック⑤ 10 月 31 日 14:30-16:25	A06	プロホロワ・マリア ПРОХОРОВА Мария	ロシアの動物一人称文学の成り立ちおよび現状 Рассказ от лица животного в русской литературе: история жанра и современные тенденции	佐藤千登勢 八木君人
	A07	古宮路子 КОМИЯ Митико	生活と芸術――レフと A.ヴォロンスキーの文学論争 Жизнь и искусство: литературные споры между ЛЕФом и А. Воронским	
	A08	ブリノフ・エフゲニー БЛИНОВ Евгений	Реполитизируя Бахтина: от «классовой основы» языковых изменений к эволюции литературных жанров и обратно	
第 2 会場				
ブロック・日時	番号	発表者	題　目	司会者
ブロック② 10 月 31 日 9:50-11:05	B01	恩田義徳 ONDA Yoshinori	コンスタンティノスの宗教論争とハザールの内乱 The Khazar Mission of Constantine and the Struggle for Power in Khazar	服部文昭 中澤敦夫
	C01	畔柳千明 КУРОЯНАГИ Тиаки	正教会の初期漢文カテキズムと適応 Культурная аккомодация в становлении православных катехизисов на китайском языке	
ブロック④ 10 月 31 日 11:35-12:50	C02	熊野谷葉子 КУМАНОЯ Ёко	遠い隣人を語るフォークロア：ヴィーヤの世間話とヴィーヤについての世間話 Дальние соседи в фольклорной традиции: выйские бывальщины и бывальщины о Вые	藤原潤子 山田徹也
	C03	塚崎今日子 ЦУКАДЗАКИ Кёко	ヴォジョとは何か？ Кто такой вожо?	
ブロック⑥ 10 月 31 日 14:30-15:45	C04	神竹喜重子 КАМИТАКЭ Киэко	《ホヴァーンシチナ》の普及：キエフから主要都市へ Распространение «Хованщины»: из Киева в столицу	梅津紀雄 伊藤愉
	C05	池坂麻記 IKESAKA Maki	1920 年代のメイエルホリド作品の変遷 Works of Meyerhold in the 1920s	

第 2 日研究発表　11 月 1 日（日）

第 1 会場				
ブロック・日時	番号	発表者	題　目	司会者
ブロック⑦ 11 月 1 日 9:30-10:45	A09	奥村文音 ОКУМУРА Фуминэ	V.フレーブニコフにおける水＝死のモチーフ О мотиве воды-смерти в творчестве В.Хлебникова	岩本和久 武田昭文
	A10	有田耕平 АРИТА Кохэи	M.ゾーシェンコの作品における水の恐怖とトラウマ Страх воды и психологическая травма в произведениях М. Зощенко	
ブロック⑨ 11 月 1 日 11:15-13:15	W01	越野剛 KOSHINO Go 田村容子 TAMURA Yoko 斎藤慶子 SAITO Keiko フィオードロワ・アナスタシア FEDOROVA Anastasia	東アジアにおけるソ連の社会主義視覚文化―ジェンダー化された身体と越境するプロパガンダ Soviet Socialist Visual Culture in East Asia: Gendered Body and Transboundary Propagation	（司会） 楯岡求美 (討論者) 井口淳子 小川佐和子
第 2 会場				
ブロック・日時	番号	発表者	題　目	司会者
ブロック⑧ 11 月 1 日 9:30-10:45	C06	宮崎衣澄 МИЯДЗАКИ Идзуми	京都ハリストス正教会のイコノスタシス Иконостас православного Благовещенского собора в Киото	上野理恵 福間加容
	C07	大野斉子 ОНО Токико	19 世紀後半におけるウクライナのリアリズム的風景画 Реалистический пейзаж Украины во второй половине XIX в.	
ブロック⑩ 11 月 1 日 11:15-12:45	W02	柚木かおり ЮНОКИ Каори バイビコワ・エレーナ БАЙБИКОВА Елена 渡部直也 ВАТАБЭ Наоя	現代ロシア社会における日本文化の受容 Репрезентации японской культуры в современном российском обществе	中野幸男

第 7 回日本ロシア文学会大賞受賞記念講演

10 月 31 日（土）16 時過ぎ ― 11 月 30 日（月）インターネット配信

受賞講演者	講演題目
中澤敦夫 НАКАДЗАВА Ацуо	『イーゴリ軍記』をめぐる〈てんやわんや〉から研究テーマを選ぶことについて考える Как выбирать исследовательские темы? — Рассмотрение вопроса на примере «шумной» полемики вокруг «Слова о полку Игореве»

日本ロシア文学会第 70 回研究発表会
報告要旨集

A01　大西郁夫　『オブローモフ』と近代
A02　五月女颯　チャヴチャヴァゼ「彼は人か?!」とゴンチャロフ『オブローモフ』の対位法的読解
A03　田中沙季　A.B.コリツォーフの詩における「詩人」のイメージ
A04　松原繁生　ラスコーリニコフとスヴィドリガイロフ：二人の生死を分けたもの
A05　福井祐生　フョードロフ思想における進化論とキリスト教との統合
A06　プロホロワ・マリア　ロシアの動物一人称文学の成り立ちおよび現状
A07　古宮路子　生活と芸術――レフと A.ヴォロンスキーの文学論争
A08　БЛИНОВ Евгений　Реполитизируя Бахтина: от «классовой основы» языковых изменений к эволюции литературных жанров и обратно
A09　奥村文音　V.フレーブニコフにおける水＝死のモチーフ
A10　有田耕平　M.ゾーシェンコの作品における水の恐怖とトラウマ
B01　恩田義徳　コンスタンティノスの宗教論争とハザールの内乱
C01　畔柳千明　正教会の初期漢文カテキズムと適応
C02　熊野谷葉子　遠い隣人を語るフォークロア：ヴィーヤの世間話とヴィーヤについての世間話
C03　塚崎今日子　ヴォジョとは何か？
C04　神竹喜重子　《ホヴァーンシチナ》の普及：キエフから主要都市へ
C05　池坂麻記　1920 年代のメイエルホリド作品の変遷
C06　宮崎衣澄　京都ハリストス正教会のイコノスタシス
C07　大野斉子　19 世紀後半におけるウクライナのリアリズム的風景画
W01　東アジアにおけるソ連の社会主義視覚文化―ジェンダー化された身体と越境するプロパガンダ
(越野剛、 田村容子、斎藤慶子、フィオードロワ・アナスタシア、楯岡求美、井口淳子、小川佐和子)
W02　現代ロシア社会における日本文化の受容　(柚木かおり、バイビコワ・エレーナ、渡部直也、中野幸男)

日本ロシア文学会

2020 年 10-11 月

Abstracts of Research Papers Accepted for the 70th Annual Assembly of the Japan Association for the Study of Russian Language and Literature

A01	ОНИСИ Икуо	«Обломов» и прогресс
A02	SOTOME Hayate	Contrapuntal Reading between Ch'avch'avadze's *Is He a Human?!* and Goncharov's *Oblomov*
A03	ТАНАКА Саки	Образ «поэта» в стихотворениях А.В. Кольцова
A04	МАЦУБАРА Шигэо	Воскресший Раскольников и умерший Свидригайлов
A05	FUKUI Yuki	Synthesis of Evolution Theories and Christianity in the Thought of N.F. Fedorov
A06	ПРОХОРОВА Мария	Рассказ от лица животного в русской литературе: история жанра и современные тенденции
A07	КОМИЯ Митико	Жизнь и искусство: литературные споры между ЛЕФом и А. Воронским
A08	BLINOV Evgeny	Repoliticizing Bakthin: from "class basis" to the theory of evolution of literary genres and back
A09	ОКУМУРА Фуминэ	О мотиве воды-смерти в творчестве В. Хлебникова
A10	АРИТА Кохэи	Страх воды и психологическая травма в произведениях М. Зощенко
B01	ONDA Yoshinori	The Khazar Mission of Constantine and the Struggle for Power in Khazar
C01	КУРОЯНАГИ Тиаки	Культурная аккомодация в становлении православных катехизисов на китайском языке
C02	КУМАНОЯ Ёко	Дальние соседи в фольклорной традиции: выйские бывальщины и бывальщины о Вые
C03	ЦУКАДЗАКИ Кёко	Кто такой вожо?
C04	КАМИТАКЭ Киэко	Распространение «Хованщины»: из Киева в столицу
C05	IKESAKA Maki	Works of Meyerhold in the 1920s
C06	МИЯДЗАКИ Идзуми	Иконостас православного Благовещенского собора в Киото
C07	ОНО Токико	Реалистический пейзаж Украины во второй половине XIX в.
W01	Soviet Socialist Visual Culture in East Asia: Gendered Body and Transboundary Propagation (KOSHINO Go, TAMURA Yoko, SAITO Keiko, FEDOROVA Anastasia, TATEOKA Kumi, IGUCHI Junko, OGAWA Sawako)	
W02	Репрезентации японской культуры в современном российском обществе (ЮНОКИ Каори, БАЙБИКОВА Елена, ВАТАБЭ Наоя, НАКАНО Юкио)	

JASRLL

October - November 2020

以下の研究報告要旨は著者に無断で
引用できない。
Not for quotation without the author's
agreement.

【A01】『オブローモフ』と近代

大西　郁夫

ゴンチャローフの『オブローモフ』はごく平明な作品である。主題や展開に何らかの謎があるようには見えない。しかしその解釈は作品発表以来揺れてきたとも言える。例えばオブローモフはロシア的性格の典型と言われる一方，この主人公を普遍的人間像とみなす立場も存在する。

主人公の評価のこうした対立は，必ずしも後年の価値観の変遷によるわけではない。作品が発表された直後ドブロリューボフが『オブローモフ主義とは何か』を著し，極めて明解な解釈を提示した。『オブローモフ』はロシア社会制度がもたらした弊害の帰結を描いており，主人公をこれまで描かれてきた余計者の後光をはぎ取った究極の姿としてとらえ，農奴制を厳しく糾弾した作品であるとする見解である。しかし同時期のドルジーニンに始まり，むしろオブローモフを純粋な人間として肯定的に捉え，作品を功利主義や利己主義など，同時代社会の新しい傾向への無言の抗議とみなす読み方もなされてきた。

このように『オブローモフ』に関しては，作品の芸術的達成度への評価とは別に，解釈において奇妙なねじれとも言える現象が見られ，現在においてもなお解消されているとは言えない。現代のゴンチャローフ研究においては，こうした二つの立場を両論併記する傾向もあるが，小説の構成や展開からはある種妥協的な結論のようにも見える。

本報告では，こうした解釈のねじれを，作者ゴンチャローフの近代に対する姿勢の曖昧さと関連づけて考察する。その際にゴンチャローフの「三部作」（『平凡物語』『オブローモフ』『断崖』）を貫く「眠りと覚醒」のモチーフの変容を辿り，また旅行記『フリゲート艦パルラダ』に見られる文明観も参照しながら，ゴンチャローフの近代及び進歩に対する立場を検討することを試みる。これを踏まえてあらためて『オブローモフ』が提起する問題を考察してみたい。

（おおにし　いくお、北海道大学）

【A02】チャヴチャヴァゼ「彼は人か?!」とゴンチャロフ『オブローモフ』の対位法的読解

五月女 颯

本発表の目的は，第一に，ジョージア（グルジア）の近代文学を代表する作家 I.チャヴチャヴァゼ (1821–1907) の初期を代表する中編小説「彼は人か?」(1858–1863) を，ロシアの作家ゴンチャロフ (1812–1891) の『オブローモフ』(1859) と比較し，その差異を分析することで，当時のジョージアの社会・政治的，すなわち植民地的コンテクストを明らかにすることである。また第二に，比較によって両作品に表象されるロシアの帝国主義的・植民地主義的言説の諸相を論ずることである。

「彼は人か?!」は当時の怠惰なジョージア貴族を諷刺する作品であり，ロシアの帝国主義や植民地主義を直接批判するものではない。それゆえ先行研究でそれらのテーマから論じた研究は限定的である。また比較研究についても，両作品がほぼ同時期に書かれ，主人公が怠惰な貴族であるという共通点にも関わらず，E.ツェレテリの博士論文など数えるほどしかない。

本発表では，「彼は人か?!」のテクストを，ロシアのジョージアにおける帝国主義的・植民地主義的政策というコンテクストと関連させることで，貴族の怠惰に帝国主義・植民地主義がどのような影響を与えていたかを明らかにする。また，登場人物内の対立構図（例えば『オブローモフ』におけるシトーリツとオブローモフ）やそれらに対する語り手の位置を，「彼は人か?!」と『オブローモフ』とで対比的にみていくことで，両作品でロシア／ジョージアの（東洋的）「怠惰」がどのように捉えられているのかを分析する。このような比較を通して，ロシアの帝国主義・植民地主義が現実的課題であったジョージアの文学作品としての「彼は人か?!」においてのみならず，帝国主義や植民地主義から一見して縁遠い『オブローモフ』においても，例えばエトキンドの「内的植民地化」論を参照することで，帝国主義の経験というテーマを響き合わせることができる。このような，比較によってテクストに描かれたことや描かれなかったことを論考していく態度は，サイードの提唱する対位法的読解に共通するものである。

（そうとめ　はやて、東京大学院生）

【A03】A.B.コリツォーフの詩における「詩人」のイメージ

田中　沙季

本発表の目的は，A.B.コリツォーフの詩人としてのアイデンティティがいかなるものであったかを明らかにし，それが創作にどのような影響を与えたかを検討することである。

コリツォーフは一般的には詩「たがやし手の唄 Песня пахаря」（1831 年）や詩「収穫 Урожай」（1835 年）といった農村の情景を描いた作品で広く知られている。彼は 1809 年にヴォロネジの家畜商の家に生まれ，公教育をほとんど受けずに育ち，1831 年に同郷の A.C.スタンケーヴィチによって文壇に紹介されるまでは，友人らから書籍を融通してもらうなどして独学で詩作を学んでいた。スタンケーヴィチと共にコリツォーフの詩集出版に尽力した B.Г.ベリンスキイは，その詩集の書評で「筆者は今までこうしたナロード的な詩について何にも知らなかった。コリツォーフが初めてそれと引き合わせてくれたのだ」と書いている。このような，コリツォーフを民衆の生活をリアルに表現した詩人の先駆けとして評価する見方は時代が下っても受け継がれており，例えば Д.C.ミルスキイは，ロバート・バーンズとコリツォーフには現実の農村生活を目の当たりにしていた点や，教育を受けた貴族のものとは異なる純粋で自由なまなざしを持っていた点などいくつか共通点があるとし，「バーンズがそうであったようにコリツォーフもまた，見かけだけしかナロード的でない歌謡の文学の慣例を抜け出たのだ」と述べている。

コリツォーフの作品に家畜商という出自や独学で文学を学んだことがいかに大きな影響を与えているかについて疑問の余地はない。しかしコリツォーフ自身がそのことをどう捉えていたかについては今まであまり考えられてこなかった。コリツォーフは文壇で紹介される前から自らの出自と，書籍を通じて出会った貴族出身の詩人たちとの差異を深く自覚しており，それは作品の中において，貴族でないことや教育を受けられなかったことに対する自己卑下としてしばしば表現されているが，重要なのは「私は詩人ではなく，町人だ」という詩行に顕著であるように，コリツォーフが自らの考える「詩人」と自身との差異を意識しつつそれを肯定しようとしていたことだ。本発表では，この「詩人ではない」という自己規定が，コリツォーフ自身に詩人のイメージを客観的な視点から捉えなおす契機を与えた可能性について検討していく。

（たなか　さき、早稲田大学院生）

【A04】ラスコーリニコフとスヴィドリガイロフ：二人の生死を分けたもの

松原　繁生

『罪と罰』(1866)の登場人物であるスヴィドリガイロフを評するにあたって，バフチンは，「ラスコーリニコフのパロディー的な分身の一人」としている。自殺したスヴィドリガイロフと，復活と更生が予感されるラスコーリニコフ，分身である二人の生死を分けたものは何だったのか？この発表では，テクスト分析から二人の生死を分けたものを読み取り，ドストエフスキー（1821-81）が執筆時点で持っていた「罪と罰」と自殺についての意識についての考察を行いたい。殺人の物証がないことや，幸運にも恵まれ，ラスコーリニコフは，危機を切り抜け続けるが，おかしな言動を繰り返し，奇妙な印象を周囲に与え続ける。老婆殺しを正義とする理性の力と，それに反発しようとする無意識な力の二つが，ラスコーリニコフの内部で，戦場を形成し，驚くほどの無秩序をもたらしている。就寝時ですら，夢や幻想がラスコーリニコフを苛み続ける。他方で，スヴィドリガイロフは，成熟した人間としての分別を感じさせる，夢を見ない男である。そんな男が，ラスコーリニコフの妹ドゥーニャへの求愛を拒絶され，自殺を決行する前の夜に，3 つの夢を立て続けに見ることになる。二人の相違点をテクスト分析から，読み取ってみた結果，①愛に包まれている存在であるか？②生き続けようとする強い意志を持っているか？③理性以外の身体が発する声（夢など）に柔軟に対応できているか？の 3 つが二人の相違点として浮かび上がってきた。3 つの相違点は，理性ではなく，感性に基づいたものであり，二人が対話の中で主張する，それぞれのイデーに基づいたものではないことを特記しておきたい。同時に，道徳律的色彩の強い 3 つの相違点が，キリストの訓えに，矛盾していないことにも興味をおぼえる。「自らの心の悩みが，どんな刑罰より先に，自らの苦しみで当人を消耗させてしまう。彼は自分の罪に対して，最も厳格な法律よりも，容赦なく，無慈悲に，自ら自分を裁くのである」―ラスコーリニコフが陥った無秩序を，的確に，しかも生き生きと表現しているように感じさせるこの文章の出典は，5 年前に執筆された『死の家の記録』(1861-2)で，ある流刑囚について記述されたものである。この発表では，ドストエフスキーが持つ「罪と罰の意識」が，確かな連続性を持って，『死の家の記録』と『罪と罰』を貫いていることにも言及したい。

（まつばら　しげお、京都大学院生）

【A05】フョードロフ思想における進化論とキリスト教との統合

福井　祐生

ニコライ・フョードロフの復活事業は，神が終末において一時に完了する超越的復活とは異なり，総体としての人類が神の意志の道具となって漸次的に執り行う，霊的かつ物質的な過程である。作用史及び研究史において，昨今優位を形成しているのはフョードロフ思想を神人論として捉える視点であるが，近代科学技術の全能性に依拠した社会主義ユートピア論と評価するものも根強くある。その一因としては，フョードロフが神人論を基盤とした自身の宗教思想の全体的統一を保ちながら，近代以降の言論を積極的に採り入れているという事実が十分に説明されていないことがある。

そこで本発表においては，科学と宗教との関係を語る上で一つの議題となっている創造の問題，とりわけ人間の創造の問題を選択し，フョードロフが当該問題をどのように扱っているかを考察する。フョードロフの人間創造論を論ずるにあたり必ず取り上げられるのは，垂直姿勢の形成という議論である。生命が両親の死を通じて自らの死性を意識する時，動物的な貪りに対する抵抗として垂直姿勢を取り，その結果として人間存在が動物世界から区別される。以上が主要な先行研究において共通する説明であるが，ここには説明の不足がある。それは，フョードロフが人間創造を「神人活動的芸術」と定義し，人間になろうとする人間の最初の芸術行為と神による最後の創造行為とを同時に認めていることである。彼はこの内の前者の説明に関して，人間存在に至るまでの自然万有の発展においてさえ，死と結び付いた生殖による再生産からの解放への志向という一種の合目的性を認め，人間存在に自然万有との連続性を認めている。ここにフョードロフが進化論を宗教思想に転換して取り入れた形跡がある。しかし彼は神による創造という機縁を同時に認めることにより，神の像たる人間と自然的存在様式との間の非連続性を承認し，人間存在に対して自然万有を伴った自然秩序の克服という使命を与えている。以上のフョードロフによる人間創造論は，西洋ラテン世界において知られ，近代世界の基盤となった神，人間，自然の階層的関係を打破するものであった。

発表者は，以上のようなフョードロフによる進化論への応答を，19 世紀イギリスにおける宗教評論家たちのそれや，ロシアにおけるダーウィニズムへの反応と適宜比較しながら考察する予定である。

（ふくい　ゆうき、東京大学院生）

【A06】ロシアの動物一人称文学の成り立ちおよび現状

プロホロワ・マリア

原始文化に共通するアニミズム観や動物崇拝の現れとして，動物の身になって語ろうとする最初の試みは多くの国で大昔になされた。たとえば，ロシアではネネツ人やヤクート人のフォークロアに動物が語り手のものもある。以後，文明の進化とともに特に西洋ではアニミズム観が薄まっていき，人間中心の世界観が広まった。文化における動物の立場も急変し，寓話で人間の欠点の比喩として登場する場合以外，言葉を与えられなくなった。

19 世紀には，人間の正体を追求する中で他者の目線が必要になってきたからか，動物の視点への興味が新しい形で復活した。その先駆者は E.T.A.ホフマンだったと考えられる。『牡猫ムルの人生観』（1819-21）の語り手，牡猫ムルは動物寓話の伝統を受け継いだコミカルなイメージとして描かれている一方，傍観者の目線で人間の行動を観察し，率直に鋭い批判を述べている。

ホフマンからバトンを受けて，他国でも猫が語り手の作品が現れ始めた。ロシアでは，最初の試みは I.ゲンスレル『猫ヴァシリ・イヴァノヴィチ自身による伝記』（1863）だった。その後，動物愛護を主張する L.トルストイや博物学者の A.ヤシチェンコもこのジャンルの開発に貢献し，馬やクマネズミなど，猫とまた気色の違う語り手も出てきた。こうしてヨーロッパ由来の動物一人称文学，文学における動物の新しい在り方はロシアにも芽を出して馴染んでいった。

以来，動物の一人称語りはロシア文学において一定の人気を維持し，多数の作品が発表されている（S.チョールヌイ『フォックス・ミッキーの日記』，V.クーニン『クィーシャ』，G.スルジーテリ『サヴェリイの日々』など）。動物の純粋な視点を通して人間の行動を再評価できるのみならず，間接的に社会の批判ができることからもこの手法は重宝されている。ホフマンと同様に日記の形を取り，新鮮な角度から執筆の過程を見直すためにも使われる。なお，近年はペット文化の変化および猫ブームの影響により猫が語り手の作品は一層多くなり，しかも猫に超能力が付与されるなど多様化し，見逃せない現象になっている。

本発表ではロシアの動物一人称文学の成り立ちや現状を紹介し，ホフマン『牡猫ムルの人生観』などその根源にある作品も視野に入れた上で，このジャンルの最近の傾向およびロシア固有の特徴を明らかにしたい。

（ぷろほろわ　まりあ、東京外国語大学院生）

【A07】生活と芸術――レフと A.ヴォロンスキーの文学論争

古宮　路子

本報告は，ИРЛИ РАН で 2020 年 10 月 5-6 日に開催される予定の学会«“Проснуться знаменитым...” Стратегии литературного успеха в эпоху fin de siècle»でのロシア語の発表内容を，特に生産主義の文学理論をめぐる議論について深めるものとなる。

1920 年代ソ連の文壇は，様々なグループが割拠し，熾烈な抗争を展開して百家争鳴の様相を呈していた。中でも，文芸ジャーナリズムを舞台に真っ向から対立していたのが，アヴァンギャルドの「レフ」グループと，批評家・理論家の A.ヴォロンスキーであった。本報告は，前者の唱えた「生活建設の芸術」と後者の主張した「生活認識の芸術」を，特に文学のジャンルについて比較するものである。

「生活建設の芸術」は生産主義に一致し，造形芸術における工業への接近を出発点とする。文学におけるそれは 20 年代後半に「ファクトの文学」として現れた。トレチャコフの実践における「オペラティヴ」な文学として 30 年代に完成をみたこの方向性は，生産プロセスに直接介入し，究極的には国家建設の礎となることを志向していた。他方，当初から文学のジャンルを念頭に置いて唱えられた「生活認識の芸術」は，19 世紀の批評家ベリンスキーの芸術論を拠り所とし，文学の役目は現実の真の姿をあばくことであるとした。

レフとヴォロンスキーの文学論は，それらが土台とする知のモードにおいて根本的に異なっている。前者が現実の個別的記録や「世界そのもの」と表象の接近を図るのに対し，後者は総合的に再構築した現実認識を唱えた。また，ヴォロンスキーは，対象についての「知」は先入観として認識を歪めるとし，始原的な「無知」によってこそ世界を真の姿で捉えられると主張した。それに対し，レフの同人達は観察対象についての技術的「知」を重視した。

こうした両者の対立においては，革命後の新国家においていかなる思考の様式が選択されるべきかが争点となっていたと考えることができるであろう。両者とも，自らの文学論の根底にある現実との関わり方を，国民の末端レヴェルまで浸透させることを念頭においていた。そこには，19 世紀的伝統により大衆の教育水準を向上させるか，工業化を反映した全く新しい知のシステムを普及させるか，という 2 つの立場が現れているのである。

（こみや　みちこ、埼玉大学）

【A08】Реполитизируя Бахтина: от «классовой основы» языковых изменений к эволюции литературных жанров и обратно

БЛИНОВ Евгений

Работа Бахтина «Слово в романе», написанная в первой половине 30-х годов и впервые опубликованная на русском в 1972-м, интересна сразу по нескольким причинам. В ней на первый план выходят проблемы социологии языка, ставшие предметом острых дискуссий в момент окончания периода культурной революции и перехода от раннесоветской политики коренизации к тому, что нередко называют сталинским «национал-большевизмом». Бахтин противопоставляет центро-стремительные силы языка, укрепляющие «системы языковых норм», центробежным, запускающим процесс децентрализации и разъединения. При этом умышленно релятивизируется само понятие «единого языка», который является историческим продуктом (он «не дан, а задан») работы по языковой нормализации и затрудняет анализ подлинных идеологических различий между различными «языками», которые выделяются по самым различным критериям (социальные диалекты, гендерлекты, профессиональные жаргоны и т.п.) но всегда имеют социологическую основу и ограничены определенными хронологическими рамками. Через условное противопоставление «поэтического абсолютизма» и романного «разноречия» Бахтин закладывает основы новой области исследований, которую сам он называет «социологической стилистикой».

В своем докладе я постараюсь поместить работу Бахтина в контекст политических и лингвистических дискуссий своего времени. Широко известна заочная полемика автора «Слова в романе» с Виктором Виноградовым и его концепцией генезиса русского национального языка, изложенной в «Языке Пушкина» (1936). Куда менее известной и исследованной темой является возможное влияние на самого Бахтина «Очерков по языку» Л. Якубинского и А. Иванова. Это исследование «классовой основы» современного русского языка в дальнейшем оценивалось как образец «вульгарного социологизма» и не переиздавалось. Я постараюсь продемонстрировать несправедливость подобной оценки и возможное влияние этой важной работы на концепцию Бахтина.

（ブリノフ　エフゲニー、
ロシア科学アカデミー哲学研究所）

【A09】V.フレーブニコフにおける水＝死のモチーフ

奥村　文音

V.フレーブニコフの作品において，言うまでもなく「死」は重要な主題の一つであり，これまでの研究においても様々な角度から取り上げられてきた。この主題についての考察は無限に広がり得るが，本報告では，とくに水のイメージと結びつけられた「死」に的を絞る。

フレーブニコフの作品において，人が死ぬ瞬間はしばしば水浴や入水という行為に喩えられるが，注目すべき点は，そこで想定されている死は，決して終着点ではないということである。すなわち，水＝死を通過した人間は，また次の新たな生へと折り返す。このモチーフは，フレーブニコフが生涯探求し続けた「時間の法則」と密接に関わるものであった。人はある周期性を持って何度もこの世に生まれる，という前提のもと，「時間の法則」によって次の誕生の日付を前もって知ることが可能になれば，人は死を「非在（небытие）の波の中での一時的な水浴」として捉えるようになるだろうとフレーブニコフは述べている。

「時間の法則」に関してフレーブニコフが残した数多くの記述からは，そうして周期的に誕生する人物は，それぞれの歴史的文脈の中で類似した役割を担っていることが読み取れる。しかし，「時間の法則」をめぐる論考調の記述ではなく，詩や小説といった文学作品に登場するこの水＝死からの再生というモチーフに注目してみると，もう一つ別の面が際立ってくる。それは，人は「再誕生」に際して，その人の精髄のようなものを前の人生から受け継ぎつつも，何らかの意味で対極の性質を得るということである。言い換えれば，水＝死こそが，そうした「さかしま」性を獲得する契機となっているのであるが，これは，水面が鏡として反転した像を映し出すことをも無関係ではないだろう。フレーブニコフ自身について言えば，彼は自分自身のことを「逆さのラージン」と位置づけており，自分とステンカ・ラージンをまさにそのような鏡像の分身関係として想定していた。そして，彼ら二人を繋ぐのもやはり「水」であり，水を介した鏡像の分身という関係性が，複数の作品において，様々な形で仄めかされている。

水＝死に注目して諸作品を読み解いていくことは，様々な思想やモチーフが複雑に絡み合うフレーブニコフの創作世界を解きほぐすための一つの手がかりとなるであろう。

（おくむら　ふみね、東京外国語大学院生）

【A10】M.ゾーシェンコの作品における水の恐怖とトラウマ

有田　耕平

『日の出前』はゾーシェンコの自伝的小説である。この小説の目的は，作者の不幸の原因を探ることであり，その不幸から解放されることである。作中で語られる不幸の原因は多岐にわたる。その多くが未だに具体的な研究が行われていない。本発表では，不幸の原因の一つであるとされるゾーシェンコの水に対するトラウマについて取り上げてみたい。

ゾーシェンコに水に対するトラウマを植え付けたエピソードが『日の出前』にて語られている。学校の作文で「１」の評価を取った事に幼きゾーシェンコは絶望し，写真の現像液である塩化水銀を飲んで自殺を図ろうとする。この自殺未遂に対し，看護婦と医師は胃を洗浄するために抵抗するゾーシェンコの口に水を大量に注ぎ込んだ。このエピソードは「拷問」と名付けられている。

また一方，『日の出前』には「黒い水」という一章も存在する。この章題はブロークの詩から採られており，「黒い水」は「永久なる忘却」であるとされる。加えて，ゾーシェンコは「黒い水」の夢を幼少期の記憶の反映であり，間違った条件反射によってつくられた恐怖であると解釈している。この「永久なる忘却」であり，「拷問」である「水」の恐怖とは何か。この折り重なるイメージについて，他作品を援用しながら考察してみたい。

ゾーシェンコの初期から中期の作品には水に対する言及が繰り返し見受けられる。例えば，幼少期のゾーシェンコのように水を飲まされる病人。水の中に飛び込む人，溺れる人，救う人。ペテルブルクにおける洪水やコムナルカにおける浸水事件などが具体的な例として挙げられる。水は病人や自殺しようとする人々を生の世界へと引き戻しては，コムナルカに住まう市民に死の恐怖を与える。どの作品においても，水は登場人物たちの生死を左右する重要な要素であり，物語はゾーシェンコの恐怖心が反映された世界観で構成されている。

『日の出前』にて述べられている通り，水はあらゆる物質に含まれており，世界は水で構成されている。世界は水のように流動的であり，あらゆるものを浄化するが，救いを与えることなく忘却する。幼きゾーシェンコが作文にて無能感を覚え，死を望んでも，世界はそれを忘却させるために水を浴びせる。この歴史や文化すら忘却してしまう流動的な世界の表象としての水に革命の時代を生きるゾーシェンコは恐怖した。そのことを本発表にて検証してみたい。

（ありた　こうへい、神戸市外国語大学院生）

【B01】コンスタンティノスの宗教論争とハザールの内乱

恩田　義徳

「スラブ人への使徒」コンスタンティノス＝キュリロスの生涯を記した聖者伝『コンスタンティノス伝Vita Constantini（以下，VC）』によれば，コンスタンティノスはモラビアへの伝道に先立つ時期にハザールへ往復している。目的はカガンの呼び掛けによる宗教論争への参加である。コンスタンティノスは「カスピの門」と呼ばれる場所でカガンの歓待を受け，ユダヤ教（とイスラム教）との論争に臨み，これを論破し使命を果たす。これは860年頃のこととされるが，この時期すでにハザールではユダヤ教が国教とされ，あるいはその影響力を増しつつある時期であったと考えられている。VCの記述には史実との食い違いもあり，はっきりしない部分が多い。本研究では論争の行われた場所に注目し，それとハザール国内での権力争いを関連付けることで，VCの記述のいくつかの点について説明・解釈を試みる。

論争の行われた「カスピの門」については先行研究ですでにいくつかの候補地があげられている。旧都セメンデルか，あるいは要塞デルベントか，いずれにしてもカフカスにある街のどれかであろうと推定される。なぜカガンは首都イティルにいなかったのか。従来の説では，遊牧民の旧習に倣い季節ごとに宮廷ごとテントで移動していたためとされるが，ハザールが7世紀にはすでに定住生活に入り，牧畜から農業への経済転換を経ていたことを考えると，受け入れがたい部分がある。ハザールでは元来，宗教をつかさどるカガンが絶対権力を有していたが，後に政治・実務を担うベク（シャド）が力を増し，9世紀の初頭には二重権力体制をとっていた。カガンとベクの間で権力をめぐる争いがあったことは10世紀のビザンツ史料『帝国統治論De administrando imperio』でも示唆されている。コンスタンティノスのハザール訪問時，カガンが首都にいなかったのはこの権力争いの故に，首都にいられなかったためではないかと我々は考える。国にユダヤ教を導入し，力を増すベク勢力に対し，抗いきれなかったカガンが首都を脱し，古都（旧都）において勢力回復を図る。その一環としてビザンツとの接近を目論んだカガンが呼び掛けたのが，この宗教論争の実態ではなかったか。このように考えることで，VCにおけるカガンの使者の口上の矛盾，論争の結末に関する記述など，いくつかの点に合理的な説明が可能となる。

（おんだ　よしのり、東京外国語大学）

【C01】正教会の初期漢文カテキズムと適応

畔柳 千明

ロシア正教会における最初の漢文カテキズム（キリスト教の教義を平易に説いた書物）である『天神会課』は 1810 年，第九次北京使節団長イアキンフ＝ビチューリン（Иакинф (Бичурин), 1777-1853）によって作成され，400 部が北京で印刷された。19 世紀初頭におけるロシア側の宣教経験の浅さ，およびイエズス会士が北京で占めた存在感を考慮すれば，同書が在華イエズス会士による同名の漢文カテキズム（1739 年出版）の要約であることにさほど違和感はないかもしれない。ただし要約とはいえ，イエズス会版では固有名詞に音訳が多いのに対しビチューリン版は意味を訳出するなど独自の工夫も見られる（Карезина-Адамек, 2006）。しかし資料的制約から使用状況の再現に踏み込むのが難しいという事情もあり，こうしたカテキズムを現地社会への適応の事例と見なしうるか否か，これまで検討が不十分なままであった。

本発表は漢文カテキズムの分析に基づいて，ロシア帝国から北京に派遣されていた宗教使節団（Российская духовная миссия в Пекине）が経験した異文化適応の理解に貢献することを試みる。発表者は正教会版『天神会課』を同書より後に作られた漢文カテキズム，特にロストフの聖ディミートリイ（Св. Димитрий Ростовский, 1651-1709）の『正教信仰の鏡　（Зерцало православного исповедания）』と合わせて論じる。『正教信仰の鏡』は，前者の出版以前である 1809 年に「漢文で正教会の教義を記述するときに参考になるように」宗務院の決定で北京にもたらされ，1863 年に漢訳『東教宗鑑』が出版された。すなわち両者の漢文カテキズムとしての成立過程は単純な前後関係ではなく，相互に影響し合っている。一方で『東教宗鑑』は詳細な説明を補って訳すなど，『天神会課』にはなかった操作も見られる。これらの分析を通じて，二つのカテキズムの成立の間にロシア側の北京現地社会に対する理解に変化が生じていたことが明らかになる。

（くろやなぎ　ちあき、東京大学院生）

【C02】遠い隣人を語るフォークロア：ヴィーヤの世間話とヴィーヤについての世間話

熊野谷　葉子

報告者がフォークロア調査を行っているアルハンゲリスク州上トイマ地区は，北ドヴィナ川中流域に広がる約 2 万㎢の森林と農村の地区である。人口は約 1 万 3 千人，地区行政の中心である上トイマ村は南の鉄道駅コトラスから 160 ㎞，北のアルハンゲリスクから 450 ㎞。地区内のほとんどの集落が北ドヴィナ川に注ぐ支流沿いにあるが，上トイマから直線距離で約 80 ㎞，車で 170 ㎞の地区最深部には，ヴィーヤという隔絶した集落群がある。ここは既に東のピネガ川上流域に属し，上トイマからの道は河川に阻まれるため，河川が凍結する冬以外は集落へ到達できない。

ヴィーヤとその付近の集落は電化もインフラ整備も進まなかったため，第二次世界大戦後にもなお伝統的な農村文化が残っていた。そのことは我々の調査でも早くから明らかで，独特の方言語彙や発音，古めかしい結婚儀礼，チャストゥーシカの旋律や歌い方の独特さ，呪術の旺盛さなどに関する証言が，上トイマなど北ドヴィナ沿岸（以下トイマ）の住民からもヴィーヤの出身者からも記録された。トイマの住民たちはしばしば彼らを「ピンジャキ（ピネガの衆）」と呼び，「キラ」と呼ばれる腫瘍や「イコタ」という憑き物を「植えた」悪者として，よく世間話に登場させている。

2019 年 2 月，報告者は初めてヴィーヤを訪問し，数人にインタビューを行った。そこでは村の生活の今昔が具体的に語られ，ヴィーヤの村々の僻地ぶりと貧困，また民間治療の発達やピネガ川方面との繋がりなど，トイマでは語られないピンジャキ像が明らかにされた。例えば，彼らの呪術は整骨，薬草，蒸風呂治療と並ぶ医療知識と見なせること，農作物の収穫量が少なく戦前は冬からトイマへ物乞いに出かけたこと，森林伐採では自分たち労働者が住むバラック建設から行ったこと，戦時徴用の帰途は駅から村まで 300 ㎞近い距離を物乞いをしながら歩いたこと，等である。

ヴィーヤの人々によるこうした体験談や世間話は，トイマの人々の世間話に登場する「危険なピンジャキ」像の形成過程を推測させる。隔絶した村で古い暮らしと知識を守って暮らす隣人達が，時折要求を掲げて距離をつめてくる。この，よく知らないが全く異質とは言えない隣人への不安，嫌悪，共感が，トイマの世間話には混在する。報告では，ヴィーヤの人々の体験談と世間話をトイマの人々のヴィーヤに関する世間話と比較しながら検討する。

（くまのや　ようこ、慶應義塾大学）

【C03】ヴォジョとは何か？

塚崎　今日子

北ロシアおよびシベリアのフォークロアにはシュリクン（シュリーギン，シュリーキン，シリクン）と呼ばれる存在が登場する。これは，「スヴャートキ（クリスマスから洗礼祭前夜）に地上に現れ，その期間が終わると『ヨルダン』と呼ばれる川面の氷に開けた穴を通って水中に去る」と考えられている存在である。また，スヴャートキに仮装をして家々を尋ねたり，遊びまわったりする人間たちもシュリクンと呼ばれる。

民族学者 Д.К.ゼレーニンは，このシュリクンの名称の起源について，オスマン語，チャガタイ語，バラビンスキー語（バラビンスキー＝タタールが使用していた言葉），カザフ・キルギス語（カザフ語）の「sülük（蛭 пиявка）」という語に注目し，「sülük-kan」という推定形`が「хан пиявок 蛭の王」を意味していたと推測し，そこからシュリクンという名称が発生したと考えた。ゼレーニンはそこからさらに考察を進め，ヴォルガ河中流沿岸に住んでいたヴォルガ・ブルガール人の間で，この語は，同じくヴォルガ流域に住むフィン系の人々に伝わるヴォジョと呼ばれる水辺に現れる異界の存在と結び付けられ，その結果 sülük-kan（＝蛭の王）は水辺にいる小さな異界の存在として人格化されるに到ったと考察した。

ここに登場するヴォジョとは何か。ヴォジョと呼ばれる存在は，フィン・ウゴル系民族であるウドムルト人の間で伝えられる存在であるため，従来のスラヴ人の民間信仰研究などで言及されることはほとんどなかった。

そこで本報告では，まず，20 世紀初めおよび比較的新しい 20 世紀末の文献・資料に基づいて，ヴォジョという存在の特徴，さらにヴォジョに関わる儀礼について明らかにする。具体的には，ヴォジョが冬だけではなく，夏の一定の時期にも現れると考えられている点に注目したいと考えている。また，ヴォジョがシュリクンと同様に，一定の時期に水中から現れる異界の存在の名称であると同時に，その時期の仮装者の呼称でもあり，さらにはその時期に行われる儀礼全体を指す語でもある点にも注目したい。

その上で，ゼレーニンがなぜヴォジョに注目したのかという点にも触れながら，シュリクンとヴォジョの関わりについて考察を行いたい。

（つかざき　きょうこ、北海道科学大学）

【C04】《ホヴァーンシチナ》の普及：キエフから主要都市へ

神竹　喜重子

19 世紀末のロシア・オペラ文化を論じるにあたり，ラシチェンコは当時のロシア帝国内地方都市の歌劇場について，「市から助成を受ければ受けるほど市に対し従属的になり，レパートリーの方針やリハーサルの進め方まで介入されていた。そのためある程度妥協せざるを得なかった」，「帝室劇場の幹部の圧力が地方にまで影響し，地方の歌劇場の公演は，帝室劇場の上演の二番煎じに過ぎなかった」と述べている。地方の歌劇場は，ロシア帝国の首都ペテルブルグの帝室劇場から，市を介して干渉を受け続け，ついぞこれを克服することはなかった――要するに，首都＞地方の構図である。しかし，このような「既知の事実」は，果たして当時のロシア・オペラ界で実際に起きていたことであろうか。そのような問いが浮上するとき，重要な指標となるのがモデスト・ムーソルグスキイの《ホヴァーンシチナ》である。

長らく帝室劇場のレパートリーから排除されていた《ホヴァーンシチナ》は，これまでのロシア音楽研究においては，1897 年 11 月のマーモントフ私立オペラ団によるモスクワ初演が知られるところである。しかし実際には，その前史である 1892 年のキエフ初演が存在していた。このキエフ初演が重要なのは，《ホヴァーンシチナ》の上演史において，ある特徴的な「人・モノの移動」を示しつつ，まさにマーモントフ私立オペラ団のモスクワ初演に大きな影響を与えているからである。そこには，ひとつの芸術的潮流が主要都市から地方へではなく，むしろ地方から主要都市に向けて波及していた過程を見出すことができる。

本発表ではまず，《ホヴァーンシチナ》のあらすじを紹介し，19 世紀後半のロシアの社会情勢及びキエフにおける音楽文化の状況を整理する。その後，1892 年における《ホヴァーンシチナ》のキエフ初演の内容の詳細を明らかにし，同初演が，1897 年のマーモントフ私立オペラ団のモスクワ初演にいかなる影響を与えているのかを論じていくこととする。

（かみたけ　きえこ、
日本学術振興会特別研究員）

【C05】1920 年代のメイエルホリド作品の変遷

池坂　麻記

メイエルホリドは 1917 年の革命前にコメディアデラルテに傾倒し，客席と舞台を融合させようとし，1925 年にこれからはメロドラマだと『ブブス先生』を，矢張り悲喜劇だと同年『委任状』を，そして 1934 年には『椿姫』という悲劇を上演したが，成功するのは毎回，革命以前の古典か外国作品ばかりで，ソ連的ではないといつも批判されていた。一体，どんな演目を選べば良かったのか。大体，何故メイエルホリド本人が脚本を書かなかったのか。原作者ファイコに怒られるほど改作した『ブブス先生』はブルジョワだということで批判を浴びている。

これまで 1920 年代までのメイエルホリド作品から幾つか選んで作品ごとに分けて発表してきたが，今回は，道化と笑いについて焦点を絞ってそれらを構成し直したい。革命直後に，舞台でメイエルホリドや教育人民委員ルナチャルスキーが推奨した教化の笑いには笑う側から笑われる側への方向性があり，両者が融合することはない為，カーニバル的な相互的な笑いは元々舞台では不可能だった。

最終的には，何故天才なのにメイエルホリドはスターリンの気に入るような作品を発表することができなかったのか，何故，適当にスターリン万歳のような作品ができないのか，何故，俳優の個性などは無視してストックキャラクターに役を当て嵌めて「個」を消すような方向に舵を取ったのに全体主義と合わなかったのか，ということを解明したいと考えており，今回の発表では道化と笑いから手がかりを探してまとめたいと思う。

（いけさか　まき、関西支部）

【C06】京都ハリストス正教会のイコノスタシス

宮崎　衣澄

京都ハリストス正教会生神女福音聖堂のイコノスタシスは，1902 年モスクワのイコン画家，Я.エパネチニコフの工房で制作されたものである。イコノスタシスは，京都に新たに建設される本格的な教会堂用として，モスクワで注文された。京都正教会イコノスタシスについては，水島行楊『京都至聖生神女福音聖堂の記念画帖』（1904 年）や鐸木道剛による一連の研究（「ペテルブルグのノヴォジェーヴィチ復活女子修道院と東京十字架教会」『岡山大学文学部紀要』第 10 号，1998 年，「京都生神女福音聖堂の聖障とイコン」『京都生神女福音大聖堂建設』，2018 年他），田中智恵子による修復記録などがある。しかし，これまでの研究は京都正教会のイコノスタシスのイコンに関する紹介が主であり，当時のイコン画家におけるエパネチニコフの位置づけ，及びエパネチニコフの他作との比較やエパネチニコフ工房における京都正教会イコンの特徴については言及されてこなかった。その要因として，エパネチニコフが東京旧ニコライ堂のイコノスタシスを制作した B.ペシェホーノフ，大阪庇護聖堂のイコノスタシスを手掛けた B.グリヤーノフほど，イコン画家としての評価が高くなく，資料が乏しいことが挙げられる。ロシアにおいても，エパネチニコフを本格的に取り上げた研究はなく，19-20 世紀初頭ロシア・イコンの歴史の中で言及されるにとどまる。同時期に活躍した他のイコン画家同様，作例があまり残っていないことも，研究が遅れている理由の一つである。

本発表では，19-20 世紀ロシア・イコンに関する最新の研究と，発表者がロシアの美術館，教会等で調査したエパネチニコフのイコンを分析資料として，次の点を明らかにする。①当時のロシア・イコンにおけるエパネチニコフ工房の特徴，②同工房における京都正教会イコンの特徴。京都正教会のイコノスタシスは完全な形で現存する貴重なイコノスタシスであり，本研究がロシアにおけるエパネチニコフ工房や 20 世紀ロシア・イコン研究に新たな知見を与えることが期待される。さらに，京都正教会教会堂は亜使徒ニコライが教会建立や内装の手配を主導しており，東京旧ニコライ堂，大阪庇護聖堂のイコノスタシスと合わせて分析することで，明治期日本に将来された 3 大イコノスタシスに共通する特徴が明らかになると考える。

（みやざき　いずみ、富山高等専門学校）

【C07】19 世紀後半におけるウクライナのリアリズム的風景画

大野　斉子

本発表では 19 世紀後半，リアリズム期におけるウクライナ美術の風景画に注目し，ウクライナにおける土地の景観が社会的に再定義される経緯を風景画の展開を通じて考察する。

ウクライナ美術史において，19 世紀後半は他のジャンルに比べ特に風景画に関心が集まった時期である。ウクライナ美術における風景は，早くはバロック期の肖像画や宗教画の背景として現れるが，18 世紀から 19 世紀前半までは主要画題の背景として補助的な役割を果たすことが多く，ジャンルとしての展開は遅かった。19 世紀の半ばから風景は人物から切り離され，独立したジャンルとして急速な発展を見せる。

一見，ウクライナの風景画は同時代のヨーロッパ絵画と比較して特別な個性を発揮していないように思われる。確かにこの時期におけるウクライナ出身の画家はペテルブルグの芸術アカデミー等で学び，西欧のほぼ同時代の絵画技法を身につけているため，風景画を構成する眼差しもまた技法を通じて学びとったものであることを免れない。一方で，風景画が当時の画壇で一大ジャンルとなる背景は同時代のウクライナおよびロシア帝国の社会的な要因に根差している。

本発表では，ウクライナの風景画ジャンルの展開の契機を 19 世紀半ばまで続くロマン主義時代に探るとともに，その後に活躍したヴァシリキフシキイなど，ウクライナ美術史において重視される画家の作品を中心に，風景の客体化，地理的特性，画題の創出という観点からリアリズムに向かう風景画の変化を分析する。特に風景に対する眼差しの変化については作品が採用する技法の美術史上の段階を西欧の風景画史と対照しつつ，技法上の選択と同時代の知的・社会的関心の関連づけを行う。その際，当時においてウクライナとロシアの絵画が不可分であったことを踏まえ，ロシアを中心に活躍した同時代の画家の風景画との比較を取り入れるとともに，後に国別の美術史として分類・編集される際の理由を視野に入れて考察する。

（おおの　ときこ、宇都宮大学）

【W01】ワークショップ　東アジアにおけるソ連の社会主義視覚文化—ジェンダー化された身体と越境するプロパガンダ

〔全体の趣旨〕

20 世紀の社会主義の文化・芸術は「インターナショナル」なネットワークの中で流通した。本企画の目的は，ソ連と東アジアの事例を取り上げて，社会主義の文化的価値や実践の越境的な伝播の様相を明らかにするため，異なる地域・分野の研究者による共同研究を推進することである。具体的には，日本と中国におけるソ連のバレエや映画の受容を扱う。映画，舞台芸術，日本の紙芝居，中国の連環画といった視覚的なメディアは，非識字者を含む大衆への有効なプロパガンダとされていた。それらを分析するにあたっては，文化的な越境に起因するジェンダーの観点にも注目する。作品の肯定的・否定的な人物像を「翻訳」する過程において，ジェンダー化された身体が様々なかたちで前景化した例を見出すことができる。

司会：楯岡　求美（東京大学）
討論者：井口　淳子（大阪音楽大学）、
小川　佐和子（北海道大学）

〔全体の構成と各発表の要旨〕

1.「ソ連バレエの演出が日本バレエに与えた影響：チャイコフスキー記念東京バレエ学校上演『白鳥の湖』（1963 年）を例に」

斎藤　慶子（日本学術振興会）

冷戦を背景とした米ソの文化外交の一環として，日本には 1950 年代から両国の文化団体および個人が次々に派遣されてきていた。1960 年設立のチャイコフスキー記念東京バレエ学校(1964 年閉校，理事長林広吉，以下「東京バレエ学校」)はソ連から教師を迎え，ソ連の教育方式に準拠した学校だった。東京バレエ学校は，1963 年 11 月 17 日，I.スミルノフと M.スミルノワによる演出・振付の『白鳥の湖』を上演した（M.プティパ，L.イワノフ，A.ゴルスキーに基づく）。これは日本のバレエ史においてソ連の舞踊家に直接指導された『白鳥の湖』の初の全幕上演の例だとみなされている。

彼らの『白鳥の湖』は，社会主義リアリズムを舞台で実現するというソ連バレエ全体の気運の中で創造されたものだった。東京バレエ学校の後継の東京バレエ団では，様々な変更を加えながら，スミルノフ版の『白鳥の湖』をレパートリーに 50 年間保持した。その他，東京シティ・バレエ団もスミルノフの特徴的な演出を今日にいたるまで取り入れている。これらの事例によって，ソ連の社会主義リアリズムの影響が現代の日本のバレエにまで及んでいることをあきらかにしたい。

2. 「映画『人生案内』とその教化価値—ソビエト初トーキー映画の日本公開・紙芝居化をめぐって」

フィオードロワ・アナスタシア
（ロシア高等経済学院）

1930 年代初頭の日本映画は，トーキーへの移行とドキュメンタリーの台頭を中心に論じられることが多い。この時代はまた，紙芝居という新しい娯楽メディアの隆盛によっても特徴づけられる。専門の語り手によって街頭で上演された紙芝居は，1930～60 年代をピークに児童から絶大な人気を集めた。戦後の日本で漫画とアニメが目指しい発展を遂げる基盤を作った紙芝居の歴史を考える上で，避けて通れないのが松永健哉の製作した教育紙芝居『人生案内』（1933 年）である。厳しい労働を通じて責任ある市民として目覚め，自己改造していく浮浪児の姿を描いたこの紙芝居は，ニコライ・エック監督のソビエト初のトーキー映画«Путевка в жизнь»（1931 年）を翻案したものだった。松永がこの作品に着目したのはどうしてか。ソビエトのトーキー映画を翻案したこの作品が，日本の紙芝居史において極めて特別な地位を獲得し，現在もそれを保持し続けているのは何故か。映画や紙芝居といった大衆娯楽の「危険性」をめぐる各種メディアの言説に注目しながら考察してみたい。

3.「バレエのイメージと女性の身体：ソ連映画『1918 年のレーニン』の中国における受容」

田村　容子（北海道大学）、越野　剛（東京大学）

本発表は，文化大革命期においても上映可能な数少ない外国映画だった『1918 年のレーニン』（1939 年）の中国における受容と解釈の変化を分析する。それによって中国社会の社会主義的文化価値の変容についての示唆が得られる。とりわけ映画の二つのシーンに着目する。①夫婦間の抱擁と接吻という親密な身振りを伴う台詞「パンは手に入るよ」が発せられる場面。②劇中劇のかたちで示される『白鳥の湖』のバレエの場面。舞台上の女性ダンサーの魅惑的な身体は中国の観衆の記憶に刻み込まれた。これらの場面によってソ連女性についての多義的な解釈，たとえば一方ではユートピア的，政治的に正しい表象，他方では性的で，オクシデンタルな，公的イデオロギーから逸脱したイメージが形成された。食糧不足という映画の主要なモチーフが，禁欲的な道徳価値を持つ社会主義中国の観衆にとって性的な欠乏の感情を喚起した可能性も検討に値する。その痕跡はソ連解体後の新しい中国映画にも見ることができる。

【W02】ワークショップ　現代ロシア社会における日本文化の受容

〔全体の趣旨〕

今日のロシアでは，インターネットを通じて日本文化が紹介され，文化理解が進んでいる。一昔前のロシアでは日本と言えばサムライ，姥捨て山などが連想され，我々としては事実関係の説明に困ることもあったものだが，今や都市にはスシショップが乱立し，若者はアニメに興じ，вишня がサークラと呼ばれることもあるようにさえなった。しかし，日本文化が現在どのように紹介され，受け入れられ，ロシアの文化の中に取り入れられているのかというテーマは，ロシアを専門としない人たちがロシアに対する親近感を抱くきっかけになるにもかかわらず，我が国においては研究としてはなかなか取り上げられることがないように思われる。

本ワークショップは，ロシア文化研究の発展のための新たな試みとして，言語学，文学，文化学の研究者がそれぞれの専門分野あるいは関連分野で，現地調査に基づき，現在のロシアにおける日本文化の受容の事例報告および考察をする。発表言語は，渡部と柚木が日本語，バイビコワはロシア語を予定している。報告後，コメンテーターおよびフロアとの質疑応答を行う。

司会兼コメンテーター：中野　幸男（同志社大学）

〔全体の構成と各発表の要旨〕

1.「日本語由来のロシア語新語形成」
渡部　直也（東京大学）

近年ロシア語に借入された外来語は，大多数を占める英語由来のものを除くと，日本語起源のものが比較的多く確認される。借用語の定着度を推し量る一つの視点として，語の派生が挙げられる。すなわち，原語を音韻的に変換するのみならず，そこから受け入れ側言語の語形成過程を経て，様々な派生語が生じるものである。本発表では，近年インターネットを中心に観察される日本語由来の派生借用語から，日本文化の受容過程におけるロシア語の動的な実態を考察する。特に，日本語本来の意味や用法と異なる，ロシア語において定着した語彙に着目する。

2.「現代ロシアのアニメーションの中で変わっていく『日本』のイメージ」
バイビコワ・エレーナ（神戸市外国語大学）

ロシアでは，ロシアにおける日本の民族文化的なステレオタイプ化と形象の形成は，アンケートの実施や，文学作品や映画やその他の大衆文化のアイテムの分析により，広く研究されているテーマである。コミュニケーション分野の専門家は昨今，アニメが今や子供の世界観と価値観の形成における極めて重要な要素の一つとなっていることを指摘してはいるが，現代のロシアアニメ，特に子供向けアニメ映画には日本に関連して言及できるテーマがあるにもかかわらず，実質上そのような研究の対象にはなってこなかった。本報告は，「マーシャと熊」をはじめとする現代ロシアの子供用アニメにおける日本および日本人の表象について考察し，21 世紀初頭のロシアにおける日本のイメージの主要な構成要素を描き出すことを目的とする。

3.「2010 年代における新たなアマチュア文化の生成と発展 : YouTuber によるアニソンのロシア語カバー」
柚木　かおり（関西外国語大学）

ロシアでは日本のアニメは 2000 年代からインターネットを通じて閲覧され，ティーンエイジャーの間で人気を博してきた。2010 年代にはその主題歌をロシア語に訳して歌う YouTuber が出現し，その活動は今日に至るまで発展を続けている。本報告では，ロシアの YouTuber たちの活動を概観した後，男性と女性ヴォーカル 1 名ずつへ行った聞き取り調査を基に，ロシアの音楽社会学ではアマチュア文化に分類される当該文化の具体的内容を示す。さらに，訳詞におけるロシア語の利点と問題点を指摘し，今後の展望を述べる。

ロシア語百科事典 増訂第 3 版
Русский язык: Энциклопедия
М. Аст-Пресс Школа. 2020. 904 頁 ¥13,970

ロシア語歴史文法 百科辞典
Историческая грамматика русского языка Энциклопедический словарь.
М., Азбуковник. 2020. 520 頁 ¥7,150

ストルガツキー兄弟全集 全33巻
Стругацкий А.Н., Стругацкий Б. Н. – Полное собрание сочинений. В 33 т.
СПб., <Сидорович>. 2017 年から刊行中.
各巻 ¥12,000～

ロシア作家人名辞典 1800-1917年 第 6 巻
Русские писатели. 1800-1917: Биографический словарь. Т.6.С-Ч.
М., СПб., Нестор-история. 2019. 656 頁 ¥12,210

日本の亜使徒聖ニコライ著作集 全10巻
Собрание трудов равноапостольного Николая Японского. В 10 т.
М., <Пенаты и книга>. 2018-.
Т.1 公式書簡集 1860-1883. 497 頁 ¥6,600
Т.2 公式書簡集 1884-1912. 584 頁 ¥6,820
Т.3 書簡集 1860-1911. 756 頁 ¥7,590

ロシアの社会思想 全4巻
古代から 20 世紀中葉まで
Общественная мысль России: с древнейших времен до середины XX в. В 4 т.
М.., <РОССПЭН>.2020 ¥13,860

****

ブックショップ **ナウカ・ジャパン**
10:00−19:00（日曜・祝日休み）、学生割引あり

ナウカ・ジャパン
〒101−0051 東京都千代田区神田神保町 1−34
TEL 03-3219-0155, FAX 03-3219-0158
book@naukajapan.jp https://www.naukajapan.jp

◆スミルノーヴァ: 『ベールキン物語』における描かれたものと物語 Смирнова Н. - Изображаемое и рассказ в "Повестях Белкина". М. : Канон+; Реабилитация, 2019. 192 с. Q8333 税込 ￥3,850

◆バゾーエフ他: ロシア語ジェスチャー言語辞典[ハードカバー] Базоев В.З.и др. - Словарь русского жестового языка. Издание 2-е. Переплет. М. : ФЛИНТА, 2019. 528 с. Q8488 税込 ￥5,500

◆コヴリーシキナ: 自分の感情をロシア語で言い表しましょう (B2水準) Коврижкина Д.Г. - Выражаем свои эмоции по-русски. (B2). СПб. : Златоуст, 2020. 348 с. Q8740 税込 ￥4,400

◆エリストラートフ他: 珍しい博物館についての珍しいお話 ロシアの文化遺産について 外国人学習者のための教材 (B1水準) Елистратов В. С., Ружицкий И. В. - Необычные рассказы о необычных музеях. Русская культурная память.Учебное пособие для иностранных учащихся. М. : Русский язык. Курсы, 2020. 240 с. Q8942 税込 ￥3,300

◆チュプリーニン: 雪解け 1953年3月-1968年8月 Чупринин С. - Оттепель: События. Март 1953 - август 1968 года. (Серия: Гуманитарное наследие). М. : Новое литературное обозрение, 2020. 1192 с. Q9282 税込 ￥9,350

◆ジェレプツォーヴァ他: ロシアについてロシア語を使って知る教科書 外国人学習者向け Жеребцова Ж.И.и др. - О России по-русски: учебное пособие для иностранных студентов. (B1-B2). М. : Русский язык. Курсы, 2020. 248 с. Q9543 税込 ￥3,850

◆プーシキン家の人々 家系百科辞典 Пушкины: генеалогическая энциклопедия. М.: РОССПЭН, 2020. 592 с. Q9703 税込 ￥8,800

◆ロシア語歴史文法百科事典 Историческая грамматика русского языка : Энциклопедический словарь. Под ред. В. Б. Крысько. М.: Азбуковник, 2020. 520 с. Q9708 税込 ￥7,150

◆身体の言語と記号論 第1巻 自然言語と身振りの言語における身体と身体性 Язык и семиотика тела. Том 1. Тело и телесность в естественном языке и языке жестов. (Серия: Научная библиотека). М.: Новое литературное обозрение, 2020. 672 с. Q9803 税込 ￥6,270

◆身体の言語と記号論 第2巻 人間のコミュニケーション行動における自然言語と身振りの言語 Язык и семиотика тела. Том 2. Естественный язык и язык жестов в коммуникативной деятельности человека. (Серия: Научная библиотека). М.: Новое литературное обозрение, 2020. 488 с. Q9804 税込 ￥4,620

◆マルイシェフ: 表とイラストによるアクチュアルなロシア語文法 外国人学習者のための初歩の便覧 Малышев Г.Г. - Актуальная грамматика русского языка в таблицах и иллюстрациях: справочник для иностранцев, начинающих изучать русский язык. М. : Русский язык. Курсы, 2020. 168 с. Q9814 税込 ￥3,080

◆スクレプツォーヴァ: ディスクールの言語学 Скребцова Т. Г. - Лингвистика дискурса: структура, семантика, прагматика. Курс лекций. (Studia philologica). М. : Издательский Дом ЯСК, 2020. 312 с. Q9889 税込 ￥4,400

◆同時代人の回想におけるドストエフスキー 全4巻 Достоевский в воспоминаниях современников. В 4 томах. (Серия: Воспоминания о писателях). М.: Пальмира; Т8, 2019. 1370 с. Q9963 税込 ￥11,000

◆アニーシモヴァ: ロシア文化への鍵 言語文化の素養のための学習辞典 Ансимова О. К. - Ключ к русской культуре: словарь лингвокультурной грамотности: Учебный словарь. М. : Русский язык. Курсы, 2020. 248 с. R0050 税込 ￥4,840

◆ジョージア(グルジア)詩選集 全2巻 Антология грузинской поэзии. В 2 томах. М.: Либрика, 2020. 1600 с. R0133 税込 ￥36,300

日ソのホームページ（http://www.nisso.net）ではロシアの新刊書、新聞・雑誌、美術アルバムのコーナーの他に、約80,000点のロシアの書籍のキーワード検索が可能です

㈱日 ソ
東京・大阪・モスクワ
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-4本郷小林ビル
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-4本郷小林ビル
E-Mail: nisso@nisso.net

日本ロシア文学会活動記録（2019～2020）

1. 2019 年度（第 69 回）大会

第 69 回大会（定例総会・研究発表会）は 2019 年 10 月 26 日（土）、27 日（日）の両日、早稲田大学で開催された。

10 月 26 日（土）
午前　開会式、研究発表会
午後　理事会、研究発表会、大賞受賞記念講演、定例総会、懇親会

10 月 27 日（日）
午前　研究発表会
午後　各種委員会、研究発表会

2. 研究発表会内容

研究発表

第 1 会場：国際会議場　第 1 会議室

10 月 26 日（土）午前（ブロック①）
〔司会〕小椋彩、武田昭文
A01　竹内ナターシャ：F. ソログープの戯曲における「詩人と民衆」の関係性
A02　松本隆志：アンドレイ・ベールイ『ペテルブルグ』における作中人物の造形
C01　松枝佳奈：チュコフスキー再考―回想「イリヤ・レーピン」（1936）を中心に

10 月 26 日（土）午前（ブロック④）
〔司会〕熊野谷葉子
W01　柚木かおり、藤原潤子、山田徹也：ロシア・フォークロアの現在

10 月 26 日（土）午後（ブロック⑦）
〔司会〕三好俊介
W02　КОМИЯ Митико, ГУСЬКОВ Николай, КОКОРИН Андрей, МИЯГАВА Кинуё: Вопросы текстологии и источниковедения русской литературы

10 月 27 日（日）午前（ブロック⑩）
〔司会〕大西郁夫、鳥山祐介
A06　菅原彩：コズロフ『修道士』の単行本出版をめぐって：普及手法と最初の読者たち
A07　安野直：ロシアにおける女性職業作家の出現

10 月 27 日（日）午前（ブロック⑫）
〔司会〕安達大輔
W03　八木君人、伊藤愉、梅津紀雄、大平陽一：ロシア・アヴァンギャルドのサウンドスケープ

10 月 27 日（日）午後（ブロック⑮）
〔司会〕岩本和久
W04　岩本和久、松下隆志、笹山啓、越野剛：ロシア・ポストモダニズム文学の身体観

10 月 27 日（日）午後（ブロック⑱）
〔司会〕野中進
W06　ХИРАМАЦУ Дзюнна, ДОБРЕНКО Евгений, КАИДЗАВА Хадзимэ, НАКАМУРА Тадаши: Процессы культурного строительства в России и СССР в свете работ Евгения Добренко

第 2 会場：国際会議場　第 2 会議室

10 月 26 日（土）午前（ブロック②）
〔司会〕金子百合子、匹田剛
B01　東出朋：Можно を用いた真偽疑問文の分析―文法化の観点から
B02　阿出川修嘉：現代ロシア語における体のカテゴリーの文法的振る舞いに関する一考察― 類義的動詞の体のカテゴリーの選択傾向について ―

10 月 26 日（土）午前（ブロック⑤）
〔司会〕井上幸義、黒岩幸子
B03　ЛАСКАРЕВА Елена: Моделирование фразы: лингводидактический аспект наблюдения за системными отношениями в грамматике
B04　ДУСКАЕВА Лилия, ИВАНОВА Любовь: Семантико-прагматическая роль комического в языке медиа
B05　ЗЕЛЕНКО Сергей: Вариативность номинаций социальных сетей в русскоязычном медиадискурсе

10 月 26 日（土）午後（ブロック⑧）
〔司会〕北見諭、下里俊行
C05　細川瑠璃：フロレンスキイの思想における「有機体」と「全体性」
C06　БЛИНОВ Евгений: «Эффект Бахтина»: говорить на своем языке в послереволюционную эпоху
C07　小俣智史：『創造の理論と心理学の諸問題』誌におけるП.К.エンゲリメイエルの創造の理論

10 月 27 日（日）午前（ブロック⑪）
〔司会〕古賀義顕、三谷惠子
B06　清沢紫織：1920 年代におけるロシア語及びベラルーシ語のラテン文字化：文字表記化プロセスをめぐるメタ言語言説の比較から
B07　横井幸子、ボリソワ・アンナ：外国語としてのロシア語の授業における「協働対話」について

10 月 27 日（日）午前（ブロック⑬）
〔司会〕岡本崇男、熊野谷葉子
C11　宮崎康子：ユロージヴイ聖者伝モチーフの変遷についての一考察―受苦から批判へ
C12　青山忠申：『プストゼルスク文集』の成立過程について
C13　塚崎今日子：フライパンを持つシュリクン考

10 月 27 日（日）午後（ブロック⑯）
〔司会〕桜井厚二、源貴志
A08　松原繁生：ドストエフスキーとシベリア流刑
A09　上西惠子：『白痴』におけるムィシュキンのキリストへの道
A10　籾内裕子：内田魯庵訳『罪と罰』―その 2：二葉亭四迷による助力の実体

第 3 会場：国際会議場　第 3 会議室

10 月 26 日（土）午前（ブロック③）
〔司会〕平野恵美子、村山久美子
C02　三浦領哉：後期の文筆における B. Ф. オドーエフスキーの音楽思想―『ロシアの夜』と以後への展開
C03　梶彩子：ロシア・アヴァンギャルド時代のダンスとソヴィエト・バレエのつながり
C04　石井優貴：1940 年代モスクワ音楽院小ホールにおける室内音楽演奏会：レパートリーの変遷に対する考察

10 月 26 日（土）午前（ブロック⑥）
〔司会〕北井聡子、安岡治子
A03　有田耕平：ミハイル・ゾーシェンコの創作におけるレーニンの国家的身体
A04　柿添琳子：ダニイル・ハルムスとアレクサンドル・ヴヴェジェンスキーの戯曲作品におけるインターメディア性
A05　塚田力：А. И. ソルジェニーツィンと古儀式派

10 月 26 日（土）午後（ブロック⑨）
〔司会〕上田洋子、佐藤千登勢
C08　鈴木佑也：大量生産型集合住宅の美学：1958-1963

年のソ連におけるアパートメントの審美性について
C09　神岡理恵子 : ソッツ・アート再考 : 起源、多様性、変容
C10　梶山祐治 : 2010 年代ハリウッド映画におけるロシアのイメージ

10 月 27 日（日）午前（ブロック⑭）
〔司会〕江村公、久野康彦
C14　井伊裕子 : サヴラソフ『ミヤマガラスの飛来』と 1870 年代における風景画
C15　大野斉子 : 風景画におけるウクライナの表象
C16　上野理恵 : ロシア美術におけるアール・デコ―「運動する身体」をめぐって

10 月 27 日（日）午後（ブロック⑰）
〔司会〕三浦清美
W05　МИУРА Киёхару, НАКАДЗАВА Ацуо, БОБРОВ Александр, ИТАМИ Соитиро: Динамические аспекты деятельности древнерусских книжников

10 月 27 日（日）午後（ブロック⑲）
〔司会〕丸山由紀子
W07　三谷惠子、服部文昭、田中大、恩田義徳 :『コンスタンティノス一代記』再訪－コンスタンティノス＝キュリロス没後 1150 年によせて

第 6 回日本ロシア文学会大賞受賞記念講演
10 月 26 日（土）15:45-16:45　井深大記念ホール
佐藤昭裕 : テクストを読む楽しみ―『過ぎし年月の物語』と私―

3. 総会議事録要旨

2019 年 10 月 26 日（土）16:50–18:10
早稲田大学国際会議場 1 階　井深大記念ホール
(1) 開会の辞　　会長：三谷惠子（敬称略、以下同様）
三谷会長が開会の辞を述べた。
(2) 学会賞表彰　【論文部門】　北井聡子
青山忠申
井上幸義学会賞選考委員長が選考結果の報告を行い、三谷会長から北井聡子・青山忠申両氏に表彰状と副賞が手渡された。
(3) 議長団選出　【候補】恩田義徳（関東）・北井聡子（関西）・宮川絹代（北海道）
該当支部からの推薦に基づいて三名の議長候補が示され、全会一致で承認された。
(4) 事務局報告
(5) 各種委員会報告
(6) 他の学会活動報告
・「ロシア文学大事典」について
「ロシア文学大事典」編纂ワーキンググループ中村唯史座長から、ロシア文学会編「ロシア文学大事典」（勉誠出版）の執筆依頼が 10 月末か 11 月初めに行われることについてアナウンスがあった。
・若手ワークショップの再開について
三谷惠子会長から、若手ワークショップを再開することが報告された。
・ICCEES モントリオール大会について
三谷惠子会長から、ICCEES モントリオール大会の報告応募締切が 12 月末に再延長されたこと、また若手向けの旅費補助等について HP で告知されていることが報告された。
(7) 2018/2019 年度決算および会計監査報告
事務局（庶務会計）野中進から、別紙資料に基づいて前年度決算報告が行われ、木村崇監事より会計監査報告が行われた。これが全会一致で承認された。
(8) 2019/2020 年度予算案
事務局（庶務会計）野中進から、別紙配布資料に基づいて新年度の予算案が示され、全会一致で承認された。
(9) 編集委員の選出法の変更と、学会誌規定 4 の改訂（案）
三谷惠子会長から、資料に基づいて編集委員の選出法の変更と、学会誌規定 4 の改訂について諮られ、全会一致で承認された。
(10) ロシア語教育委員会改組について（案）
三谷惠子会長から、資料に基づいてロシア語教育委員会改組について諮られ、全会一致で承認された。
(11) 2020 年度大会について
三谷惠子会長から、2020 年度大会開催校として大阪大学が提案され、全会一致で承認された。
(12) 九州北部豪雨、台風 15 号、19 号で被災された会員の方に対する会費免除について（案）
三谷惠子会長から、資料に基づいて九州北部豪雨、台風 15 号、19 号で被災された会員に対し、2019/2020 年度の会費を免除することについて諮られ、全会一致で承認された。
(13) その他
今回大会プログラムの学会 HP 掲載が遅かったのではないかという質問が寄せられた。これに対して組織委員会中村唯史委員長・事務局（庶務会計）野中進から、大会プログラムの学会 HP 掲載時期は例年通りであったが、掲載時期については組織委員会で改めて検討するという回答があった。
(14) 議長団解任・閉会の辞
議員団が解任され、中村唯史副会長が閉会の辞を述べ、閉会となった。

4. 会員異動（2019 年 10 月～2020 年 7 月、敬称略）

入会
奥村文音（関東）、五月女颯（関東）

退会
青木正博、イワノワ（イブラギモワ）・エレーナ、大谷幸太郎、尾子洋一郎、垣内智夫、狩野亨、河畠孝子、キリーロワ・エレーナ、工藤正廣、小出雅樹、佐伯郁智、佐々木精治、田辺佐保子、堀江新二

ご逝去
加藤栄一様

賛助会費納入
国際親善交流センター（JIC）、水声社、成文社、ナウカ・ジャパン、ナウカ出版、日ソ、日本ロシア語情報図書館、白水社、ロシア旅行社

維持会費納入
岩浅武久、宇多文雄、大平陽一（5 口）、川崎浹、木下晴世、木村崇、国松夏紀、栗原成郎、坂庭淳史（2 口）、佐藤純一（2 口）、佐藤靖彦、澤田和彦、鈴木淳一、高橋誠一郎、楯岡求美、中村唯史（2 口）、中村泰朗、野中進、服部文昭、法橋和彦、前田和泉、三谷惠子、望月恒子（2 口）、望月哲男（20 口）、諸星和夫（2 口）、山田勇（2 口）、山田吉二郎、米川哲夫（2 口）

日本ロシア文学会

2018/2019 会計年度決算報告 (2018 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日)

2019/2020 会計年度予算案 (2019 年 9 月 1 日～2020 年 8 月 31 日)

（2019 年 10 月 26 日総会承認）

I　一般会計

収入の部	2018/2019 年度予算	2018/2019 年度決算	2019/2020 年度予算	備考
前年度からの繰越金	2,659,631	2,659,631	4,805,029	
利息	0	9	5	
学会費	2,400,000	4,609,507	3,000,000	
入会金	5,000	2,000	5,000	
賛助会費	100,000	130,000	130,000	
雑収入	200,000	0	0	
特別収入	200,000	79,491	50,000	
合計	5,564,631	7,480,638	7,990,034	
支出の部	2018/2019 年度予算	2018/2019 年度決算	2019/2020 年度予算	備考
大会準備費	500,000	300,000	400,000	
学会誌制作費	950,000	964,637	950,000	
交通費	880,000	750,660	800,000	
事務委託料	280,000	268,820	280,000	
事務費	10,000	30,900	20,000	
広報委員会	15,428	15,428	15,428	
マプリャール会費	24,000	23,690	24,000	
JCREES 会費	30,000	0	30,000	
学会賞	60,000	90,000	60,000	
通信費	160,000	9,642	10,000	
印刷費	120,000	199,432	200,000	
会合費	0	2,400	2,000	
事業費	100,000	20,000	100,000	
特別会計に振替	0	0	0	
（小計）	3,129,428	2,675,609	2,891,428	
予備費		0	0	
次年度への繰越金	2,435,203	4,805,029	5,098,606	
合計	5,564,631	7,480,638	7,990,034	

II　特別会計

収入の部	2018/2019 年度予算	2018/2019 年度決算	2019/2020 年度予算	備考
振替（一般会計）	0	0	0	
前年度からの繰越金	2,739,172	2,739,172	2,636,193	
維持会費	270,000	319,000	300,000	
利息	25	21	20	
合計	2,956,173	3,058,193	2,936,213	
支出の部	2018/2019 年度予算	2018/2019 年度決算	2019/2020 年度予算	備考
学会費補助	250,000	122,000	200,000	
事業費	150,000	160,000	150,000	
学会参加者旅費援助	120,000	140,000	200,000	
（小計）	520,000	422,000	550,000	
予備費	2,489,197	0	0	
次年度への繰越金	0	2,636,193	2,386,213	
合計	3,009,197	3,058,193	2,936,213	

III　基金 (2018/2019会計年度決算報告)

１．学会基金	2018/2019 年度決算	備考
元本	2,527,300	
利息	214	
計	2,527,514	
２．学会国際交流基金	2018/2019 年度決算	備考
元本	1,071,000	
利息	163	
計	1,071,163	

（2019 年 10 月 25 日監査報告
監事：木村崇、鳥山祐介）

委員会活動記録

■日本ロシア文学会大賞選考委員会

服部 文昭

第 1 回委員会（2019 年 10 月 27 日、早稲田大学）
・募集手順の決定、委員長代理の選任など。

第 2 回委員会（2020 年 4 月 15 日～20 日、メール審議形式にて開催）
・締め切り日までに応募された一件の推薦につき審議し、中澤敦夫氏（中部支部）を候補者として理事会に推薦することを異議なく決定した。

第 3 回委員会（2020 年 6 月 23 日～29 日、メール審議形式にて開催）
・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、受賞記念講演会の実施方法につき審議した。会長はじめ執行部との綿密な協議を前提に、実施方法の委員長一任を決定した。

◎　7 月開催の理事会（2020 年 7 月 19 日、Zoom によるオンライン開催）において、中澤敦夫氏への授賞が正式に承認された。
・授賞理由
主たる理由となる功績: 中世ロシア研究を中心とする多大な学術業績
大賞候補者として推挙された中澤敦夫氏は富山大学名誉教授。上智大学外国語学部ロシア語学科から早稲田大学大学院文学研究科修士課程、一橋大学大学院社会学研究科後期博士課程に進まれ研鑽を積まれた。その間、1989 年 9 月、第 1 期ソ連政府奨学生としてレニングラード大学文学部への留学を果たし（1990 年 7 月まで）、その後、新潟大学、富山大学にて研究と教育に邁進された。
中澤氏は多岐にわたる中世ロシア研究、すなわち、『長司祭アヴァクーム自伝』研究に始まり、瘋癲行者研究、年代記研究、世俗文学研究、イコン研究など、さまざまな主題に関する中世ロシアの研究論文、学会報告を発表されている。リハチョフ賞受賞（2017 年）に象徴されるように、その研究はロシアでも高く評価されている。また、中澤氏の古儀式派研究は、単なる蘊蓄の深さを越えてその着眼点や分析の鋭さも高く評価するに値する。ロシアからの研究者を招聘しての古儀式派研究会の活動にも精力的に取り組み、国際協力・国際交流の観点からの貢献も大きい。
上のような中世文献学の分野での大きな専門的な研究成果のみならず、中澤氏は、ストルガツキイ兄弟の SF 作品の翻訳や『ロシア詩鑑賞ハンドブック』（いずれも群像社から刊行）を始めとする解説書等の執筆など、普及・教育に関する多彩な活動によってもロシア文学研究や知識の普及に大きく貢献してきた。
以上のことから、中澤敦夫氏が日本ロシア文学会大賞受賞者として真にふさわしく、また、この今回の授賞が、我が国の中世ロシア研究の水準の高さを内外に知らしめる好機となることにも間違いがない。

以上

■学会賞選考委員会

ヨコタ村上 孝之

学会賞選考委員会は 2019 年 12 月から 2020 年 6 月にかけて選考作業を行った。本年度はコロナ禍のため対面での選考会議を開くことができず、メールでの審議となった。選考の結果、論文部門は対象作なし、著書部門は高橋知之会員の『ロシア近代文学の青春――反省と直接性のあいだで』（東京大学出版会、2019 年 6 月）を受賞作とすることに決定した。詳しくは『ロシア語ロシア文学研究』第 52 号を参照されたい。

■学会誌編集委員会

相沢 直樹

編集委員会もコロナ禍の影響を免れず、途中からリアル会議を開くことができなくなったり、編集作業はこれまで経験したことのないやり方を強いられることが多かったですが、新米編集長をみなさまが暖かく力強く支えてくださったおかげで、当初思っていたよりも安定的に編集作業を行うことができました。
出来上がった会誌 52 号は 390 ページ近い大部なものになりました。掲載論文数は 50 号以前とほぼ同規模までに回復し、書評も旧来の分量を凌駕しているものと思われます。これは前委員会から積み残してあった書評案件を実現させたことに加え、新刊図書について多少無理を押してでもできるだけ多く紹介しようと委員会が欲ばったためであります。

■広報委員会

本田 晃子

広報委員会では、引き続き学会ホームページおよび学会メーリングリストの管理・運営を行っている。ホームページについては、「学会からのお知らせ」、「学会関連その他の催し（カレンダー）」、「公募・外部イベント情報」、「ロシア関連一般書籍」等の項目を中心として、直近 1 年間で 113 件の更新を行った。メーリングリストによる学会からのお知らせについては、直近 1 年間に 112 件の配信を行った。なおメーリングリストではイベント・公募情報等の告知だけでなく、学会からの重要なお知らせも配信していますので、メールアドレスを変更された際にはなるべく早く広報委員会（pr@yaar.jpn.org）までお知らせください。

■国際交流委員会

楯岡 求美

1. 2020 年 5 月 30 日を締切として、「国際学会等での報告に関する助成」と「公開研究会・（ミニ）シンポジウム等の実施に関する助成」の申請を募集し、委員会の審議を経て、前者 1 件、後者 0 件を理事会で採択した。助成該当者による国際学会の報告・印象記は、学会ホームページに掲載予定。なお、新型コロナにより国際的な移動が困難になり、海外渡航や招へいが難しい現状であるが、状況の改善後に交流が活発になることに備えて、来年度も本制度への助成金として予算 15 万円が理事会にて承認された。引き続き、若手会員の活用を促す方策について、提案を受け付けています。
2.「国際参加枠」による海外からの報告者については、新型コロナ感染拡大により、受け入れ困難であると判断し、2020 年度大阪大学・オンライン大会においては中止することとした。次年度以降、状況が改善され次第、再開する。
3. 昨年（2019 年度）は「国際参加枠」3 名採用のところ、1 名が体調不良により辞退し、2 名が報告を行った。来日した 2 組とも、ホテルチェックイン時にトラブルがあったり、交通機関の乗り換えについて困難な部分があり、次回から、あるていど学生等にアテンドを依頼することを検討したい（大会実施の費用から学生へ交通費・謝金を払うなど、多少の手当てが必要となる）。

4. 海外で開かれる国際会議・シンポジウム・セミナー等の情報について、国際交流委員会もしくは広報委員会までお知らせ願いたい。

■社会連携委員会

坂庭 淳史

昨年度の大会から発足した本委員会は、まずは学会の外部からのイベント相談への対応を第一の役割と認識しており、基本的には「待機」状態にある。企画参加という形で初仕事となった日本スラヴ学研究会と共催のシンポジウムは、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら延期となった。こうした状況の中で委員会内のメールでは、本委員会からの企画提案の可能性も検討したが、時期尚早であると判断した。やや出鼻をくじかれている感があるが、今後の委員会の方向性も含めて引き続き意見交換を行っていく。

■倫理委員会

佐藤 千登勢

2009 年 10 月制定の「日本ロシア文学会『倫理委員会』に関する内規」について、ここ数年間の諸問題に鑑み、内規をより明確にすべく改訂が施された。2018 年 10 月に改訂案が承認され、「日本ロシア文学会会員名簿【訂正版】2019 年 12 月」にて内規（2018 年 10 月改訂）が掲載されている。幸い本年度も、この内規に抵触し、本委員会を発足に至らしめるような事態は起こらなかった。

支部活動記録

■北海道支部

・2019 年 12 月 19 日
講演会：Yaroslav Gorbachov (SRC visiting fellow) "On the Origin of the Old (North) Russian L-less Perfect"　（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターと共催）
・2020 年 7 月に開催を予定していた研究報告会、総会は当面延期とすることとした。

支部長　宇佐見森吉
事務局担当　大西郁夫
事務局住所：　060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目
北海道大学文学部　大西研究室気付
Tel: 011-706-4090 Mail: ions@let.hokudai.ac.jp

■東北支部

2020 年度は 7 月に研究発表会の開催を予定していたが、COVID-19 感染予防のため中止となった。

支部長：長谷川章
事務局担当：川辺博
住所：〒981-3213　仙台市泉区南中山 5-5-2
聖和学園短期大学　川辺研究室気付
電話　022-376-8270 (川辺直通)
ファクス　022-376-3155 (共用)
E-mail kawabe@seiwa.ac.jp

■関東支部

1. 『関東支部報』38 号発行
2020 年 8 月 29 日
2. 2020 年度研究発表会
2020 年 9 月 12 日（土）ZOOM によるオンライン発表会
◇研究発表
新谷修一（筑波大院修士課程修了）「ロシアおよび日本におけるアルツィバーシェフ －20 世紀初頭における『サーニン』受容の比較研究－」（司会：源貴志）
奥村文音（東外大院）「フレーブニコフの作品における「逆行」と「反転」―回文詩『ラージン』とその周辺から」（司会：八木君人）
小手川将（東大院）「アンドレイ・タルコフスキーの時間論――瞬間という時間性について」（司会：坂庭淳史）
金沢友緒（電通大）「『ロシア語愛好者の友』誌と感情の主題」（司会：三浦清美）
3. 運営委員会
2020 年 3 月 29 日に開催予定であったが、コロナの影響で中止とし、研究発表会等についてはメールで審議した。
4. 2020 年度第 1 回総会
2020 年 9 月 12 日（土）（オンラインによる 2020 年度日本ロシア文学会関東支部研究発表会のあとに開催）：
①報告事項 2019.3.30-2020.3.31 の会計報告、活動報告
②審議事項 特になし
5. 今期の体制
支部長 沼野恭子
事務局長 朝妻恵里子
事務局住所 〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎 朝妻恵里子研究室 (asazuma@keio.jp)

■中部支部

昨年度は 2020 年 3 月に研究発表会・総会を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて中止になり、今年度もまだ活動できていない。そのようなわけで昨年度も今年度も活動なし。

支部長・事務局長：杉本一直
事務局住所：〒464-8671 名古屋市千種区桜が丘 23
愛知淑徳大学 交流文化学部 大学院 GCC 研究科
杉本一直研究室気付

■関西支部

１．秋季研究発表会・総会
2019 年 12 月 7 日（土）天理大学（杣之内キャンパス研究棟）
◇研究発表
中野悠希「ロシア語とポーランド語の前置詞句 y/u＋生格を用いた使役表現について」（司会：岡本崇男）
有田耕平「M.ゾーシェンコの創作における第三の実存―『アポロンとタマーラ』と『恐ろしい夜』を中心に―」（司会：前田 恵）
塚本善也「日露戦争と台湾―『台湾日日新報』を中心に」（司会：大平陽一）
◇総会
①会員の異動　②決算報告と予算案の承認　③日本ロシア文学会の報告　④次期開催校の決定

２．『関西支部会報』2019/2020 年度 第 1 号発行
2020 年 1 月 1 日

３．春季研究発表会・総会
2020 年 6 月開催予定（神戸市外国語大学）・・・新型コロナウイルス感染症のため開催中止

2020 年 9 月以降の支部長名・支部事務局連絡先
支部長：中村唯史
事務局長：服部文昭
住所　〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学文学研究科内 中村唯史研究室 気付
E-mail　hattori.vieuxslave@gmail.com

■西日本支部

１、２０２０年７月に予定していた支部総会・研究 発表会は、２０２１年３月に延期。オンライン開催とし、研究発表の部は他支部のロシア文学会員にも開放の予定。

２、次期支部長（２０２０年１０月の理事会以降）に佐藤正則氏を選出。

支部長・事務局長　西野常夫
事務局住所　〒８１９－０３９５ 福岡市西区元岡７４４
九州大学大学院比較社会文化研究院
西野常夫研究室気付

日本ロシア文学会　第 70 回大会資料集
2020 年 9 月 26 日発行
発行者　日本ロシア文学会　三谷惠子
〔書記〕
〒060-0809 札幌市北区北 9 条西 7 丁目
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
安達大輔研究室内
〔庶務会計〕
〒338-0825 さいたま市桜区下大久保 255
埼玉大学人文社会科学研究科
野中進研究室内
E-mail（共通）: yaar@yaar.jpn.org
URL: http://yaar.jpn.org/

ロシア に行くなら ジェーアイシー JIC

語学研修・留学

4,000名を超える留学派遣実績！

ロシア、ベラルーシの4つの国立大学を始めとする、短期研修から長期留学までの多様なカリキュラムが魅力。モスクワ・サンクトペテルブルグ・ウラジオストクの各都市に日本語現地連絡員を配置し、安心のバックアップ体制を整えています。
担当者全員が留学経験あり。留学セミナーや相談会を開催＆随時オンライン相談も承ります。

出張・業務・観光

◆航空券＋ホテル泊＋空港送迎＋ビザ　まるごとお任せフリープラン
◆国際航空券、ロシア国内航空券
◆業務ビザ手配
◆現地手配（ホテル・送迎・鉄道チケット・日本語ガイド等）

納品書や項目別の領収書作成、用務施設近くのホテル検索など、ご出張ならではのご要望も承ります。

ゼミのグループ旅行、作家ゆかりの地方訪問 etc.　お気軽にお問合わせください。

ジェーアイシー旅行センター株式会社　国際親善交流センター（JIC）
観光庁長官登録旅行業第1715号JATA正会員
東京オフィス：〒160-0004 東京都新宿区四谷２-14-８　YPCビル７階
大阪オフィス：〒540-0012 大阪府大阪市中央区中央区谷町２-７-４ 谷町スリースリーズビル７階

【メール】jictokyo@jic-web.co.jp　【TEL】03-3355-7295（留学:7294）
【HP】「jic　ロシア」で検索！　http://www.jic-web.co.jp/

ロシア・旧ソ連諸国とともに 54 年。創業 1966 年

54 года вместе со странами бывшего СССР! Основана в 1966 г.

≪ニューノーマル時代の、安心の旅≫
目的のある旅・留学・イベントのお手伝い
ご出張の手配、日本への招聘、短期・長期留学、
大学間交流、海外研修、国際会議サポート、
学術・文化・青年交流、取材手配・文化イベント
地域間交流サポート、業務ビザ取得

Организуем целевые поездки в Японию!
-Деловые командировки,
-учебные путешествия,
-поддержка в проведении межуниверситетских программ,
-организация международных конференций,
-содействие межрегиональным, культурным и молодежным обменам.

株式会社ロシア旅行社
JAPAN-RUSSIAN TRAVEL SERVICE CO., LTD.
〒102-0076 東京都千代田区五番町 5-1 第８田中ビル５階
Address: Daihachi-Tanaka Bldg. 5F, Gobancho 5-1,
Chiyoda-ku, Tokyo, 102-0076, Japan,
Tel: 03-3238-9101　Fax: 03-3238-9110　E-mail: info@russia.co.jp
Web site (URL): http://www.russia.co.jp
Twitter: https://twitter.com/JRTS_LTD

古代スラヴ語の世界史

服部文昭 著

古代スラヴ語から読み解く東ヨーロッパの歴史！

スラヴ人はどこから来てどのように自分たちの文字を獲得したのか。そしてスラヴ人の言語は歴史と共にどのように変化していったのか。

ISBN978-4-560-08864-7 ／四六判／ 216 ページ／定価（本体 2,600 円＋税）

ロシア語表現ハンドブック

熊野谷葉子、スニトコ・タチアナ 著

様々な状況別に詳しく分けて、言いたいこと・伝えたいことを言えるように、初級から中級までグレード別に実践的な例文を収録。

ISBN978-4-560-08830-2 ／ A5 判／ 124 ページ／定価（本体 2,200 円＋税）

かくしてモスクワの夜はつくられ、ジャズはトルコにもたらされた

二つの帝国を渡り歩いた黒人興行師フレデリックの生涯

ウラジーミル・アレクサンドロフ 著／竹田 円 訳

アメリカン・ドリームをモスクワで叶えた黒人フレデリック。ナイトクラブの興行で巨万の富を築いた彼を革命が襲う――その栄光と破滅。

ISBN978-4-560-09722-9 ／四六判／ 366 ページ／定価（本体 4,200 円＋税）

文化空間のなかのサーカス

パフォーマンスとアトラクションの人類学

オリガ・ブレニナ=ペトロヴァ 著／桑野 隆 訳

サーカスという現象は、ロシアや西欧の文化のなかでいかに表象されてきたのか。博覧強記の著者による類まれなる「サーカスの文化史」。

ISBN978-4-560-09663-5 ／ A5 判／ 442 ページ／定価（本体 8,000 円＋税）

翻訳　訳すことのストラテジー

マシュー・レイノルズ 著／秋草俊一郎 訳

最新の翻訳研究（トランスレーション・スタディーズ）ではなにが論じられているのか？　これ 1 冊でひととおりわかる！　やさしい入門書。

ISBN978-4-560-09685-7 ／四六変型／ 198 ページ／定価（本体 2,300 円＋税）

青騎士［新装版］

カンディンスキー、フランツ・マルク 編／岡田素之、相澤正己 訳

絵画、音楽、詩、舞台芸術……芸術史上の記念碑となったジャンル不問のダイナミックな芸術論集、初版（1912 年）の構成を忠実に再現。

ISBN978-4-560-09786-1 ／菊判／ 240 ページ／定価（本体 5,200 円＋税）

旅に出る時ほほえみを

ナターリヤ・ソコローワ 著／草鹿外吉 訳

地下探査の金属製怪獣 17P を発明した科学者に、独裁体制を確立し科学アカデミーを掌握した国家総統が与えた運命とは？　現代の寓話。

ISBN978-4-560-07228-8 ／新書判／ 222 ページ／定価（本体 1,800 円＋税）

白水社

〒 101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24
TEL 03-3291-7811 ／ www.hakusuisha.co.jp

水声社

［本社］東京都文京区小石川 2-7-5　〒 112-0002　tel. 03-3818-6040　fax. 03-3818-2437
［編集部］神奈川県横浜市港北区新吉田東 1-77-17　〒 223-0058　tel. 045-717-5356　fax. 045-717-5357
http://www.suiseisha.net/blog/　目録呈　◎価格税別　**小社書籍はアマゾンでは販売しておりません**
直販は――eigyo-bu@suiseisha.net へ／ブッククラブ開設しました。入会は――comet-bc@suiseisha.net へ

詳注版 カラマーゾフの兄弟

杉里直人訳　歴代の「誤訳」を徹底的に洗い出した十六番目の邦訳となる「本篇」と、聖書テクストへの密かな言及を読み解き、当時の裁判・教育制度、諺、風俗を解説する、膨大な訳注を含む「注・解説・年譜篇」からなる豪華本。**一八〇〇〇円**

ドストエフスキーと小説の問い

番場俊　ドストエフスキーは「小説」という形式をいかなるかたちで探求しつづけたのか。フロイト、バフチンを武器に、手紙／告白／メディア／時間を巡って、研究の新たな次元を切り開く。二〇一三年度日本ロシア文学会賞受賞。**五〇〇〇円**

世界の瞬間

チェーホフの詩学と進化論

高田映介　問題を評定ないし解決せず〈観察者〉に徹することを旨としたチェーホフの詩学に、偶発的〈進化〉のみが紡ぐ、非目的論的な世界観を示して世界に衝撃を与えたダーウィンの進化論を並列し、その新たな側面を照射する。**三二〇〇円**

ロシアの物語空間

近藤昌夫＋角伸明＋樫本真奈美＋高田映介＋新井美智代　人工都市と自然の対比、隠された宗教的シンボル、帰るべき場所を失った人々……近現代ロシア作家十四人の小説における場所・空間の表象を解明するロシア文学入門の書。**三五〇〇円**

自叙の迷宮

近代ロシア文化における自伝的言説

中村唯史＋大平陽一編　三浦清美＋奈倉有里＋武田昭文＋梅津紀雄　自伝、回想、日記……「銀の時代」の始まりとともに創作手法として関心が高まった〈自叙〉の実相を、革命前後の時代を中心とする近代ロシア文化の中に追う。**四〇〇〇円**

ガリツィアの森

ロシア・東欧比較文化論集

伊東一郎　森のように広大で多彩な住人に満ちたロシア・東欧文化を文学、民衆文化、音楽をみつめながら逍遥する。東欧各国、ドイツ、日本、様々な民族と言語の交流が拓く文化の地平を追い求める、東欧比較文化論の試み。**五〇〇〇円**

ロシア・アヴァンギャルドの宇宙論的音楽論

言語・美術・音楽をつらぬく四次元思想

高橋健一郎　前衛音楽家たちの音楽論を読み解き、音楽作品の内奥に〈生〉の有機的受容を指向する〈宇宙論的〉哲学を見出して、音楽学的側面からは検討しつくされたとされる〈ロシア・アヴァンギャルド音楽〉研究の新地平を開く。**三〇〇〇円**

メイド・イン・ソビエト

二〇世紀ロシアの生活図鑑

M・コレヴァ他　神長英輔＋大野斉子訳　ソ連の独特な生活雑貨、商品、党の行事に関する逸話を紹介し、豊富な図版とともに当時の日常を追想する。**二五〇〇円**

バフチンとの対話

【十一月下旬刊行予定】

M・バフチン＋V・ドゥヴァーキン　佐々木寛訳　非公式の取材にて、生い立ちから流刑時代の回想、同時代人への批評と追憶まで、ソ連体制下では公開不可能な逸話を交えつつ赤裸々に語る、半ばバフチン自伝というべき対話。**予価＝三五〇〇円**

群像社

http://gunzosha.com

左利き　レスコフ作品集1　岩浅武久訳

世の中をさかなでする遍歴を繰り返す「じゃこう牛」というあだ名の男、皇帝から与えられた課題を見事に成し遂げた左利きの職人…ロシアにはこんな人間が必ずいる。物語の名手レスコフの迫真の短編選。　1000円

髪結いの芸術家　レスコフ作品集2

神秘的な石に魅せられる人びと、軍紀を破って人助けをした哨兵の顛末、冷酷な地主に所有された女優と天才的美容師の命がけの駆け落ち…。物語作家レスコフの持ち味が存分に発揮された新訳作品集。　中村喜和・岩浅武久訳　1000円

〈翻訳〉の文学誌　溝渕園子

過去と現在や自国と他国のあいだを越境する言葉によって新たな領域を開いてきた文学。他者と向き合う〈翻訳〉という行為をキーワードに日本とロシアの文学の影響関係を考察し新たな視座を提示する比較文学の試み。　4300円

メディアと文学　ゴーゴリが古典になるまで　大野斉子

文学作品というソフトを流通させるメディアの研究なくしては古典作家の成立過程を知ることはできない。ゴーゴリがロシア社会で認知されていく過程をイラストや雑誌、様々なバリエーションの異本や教育制度から明らかにする。　5500円

ロシア語学術文体演習　基礎編／上級編

V・E・モローゾフ　小石吉彦編訳　ロシア語の語学学文学系論文作成のためにモスクワのプーシキン記念ロシア語大学から学部で使う教科書として刊行されたものを日本人むけに編訳。他の分野の論文作成にも役立つ一冊。　基礎編2300円／上級編3000円

ロシア文化通信 群 56号　戦争 革命 感染症―百年前のロシアのパンデミック／忘れられない「疫病文学」／ダーリ博物館のこと／私の読書

◇群像社 友の会（年会費500円より）にご入会の方にお送りします。

〒232-0063 神奈川県横浜市南区中里1-9-31 tel&fax 045-270-5889　図書目録呈（要切手84円）価格は税別